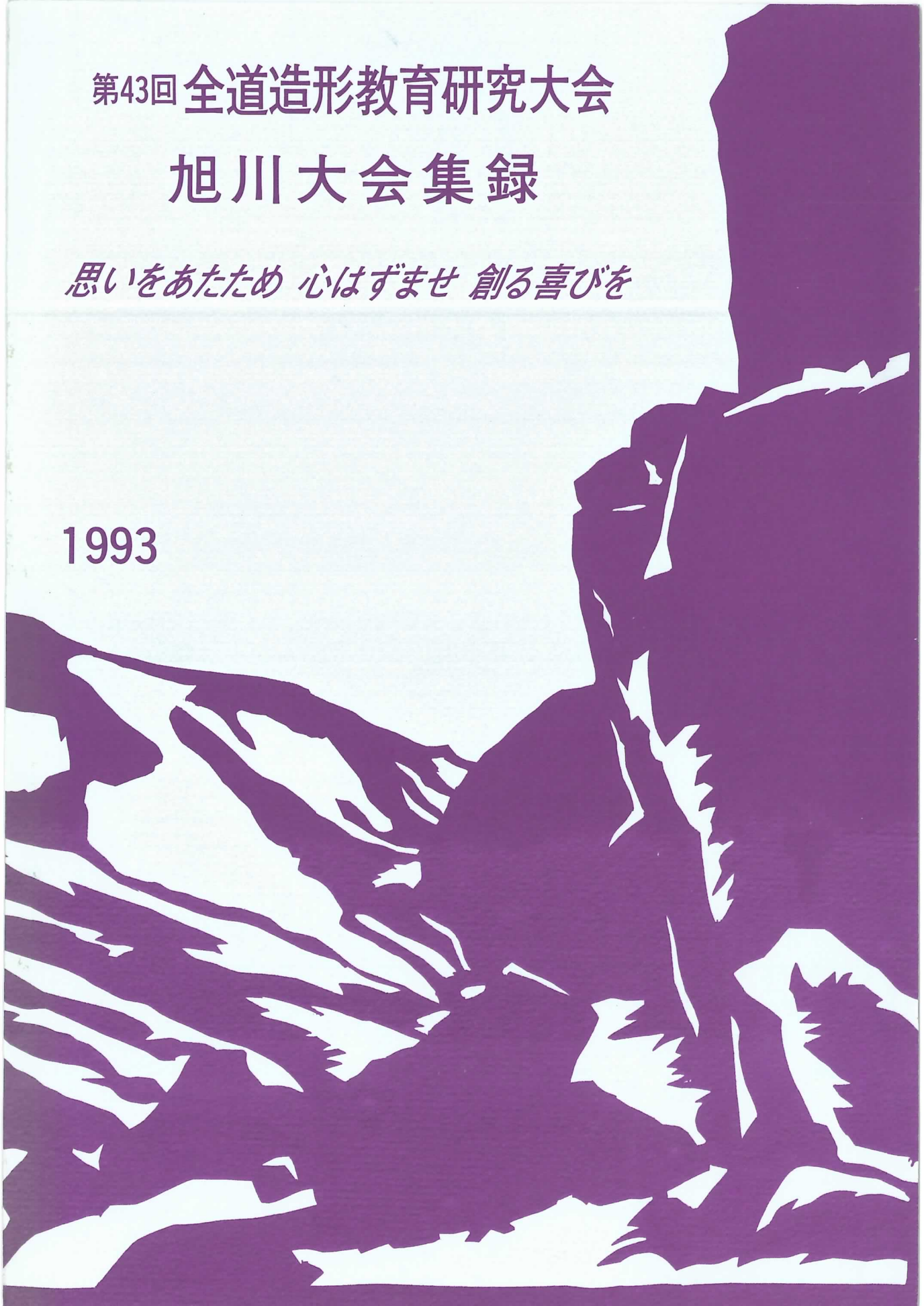


第43回 全道造形教育研究大会

# 旭川大会集録

*思いをあたため 心はずませ 創る喜びを*

1993



# 第43回全道造形教育大会旭川大会

1993.7.28(水)～29(木)

## 大会集録





# 全道造形教育研究大会 旭川大会の集録を発行するにあたって

第43回全道造形教育研究大会

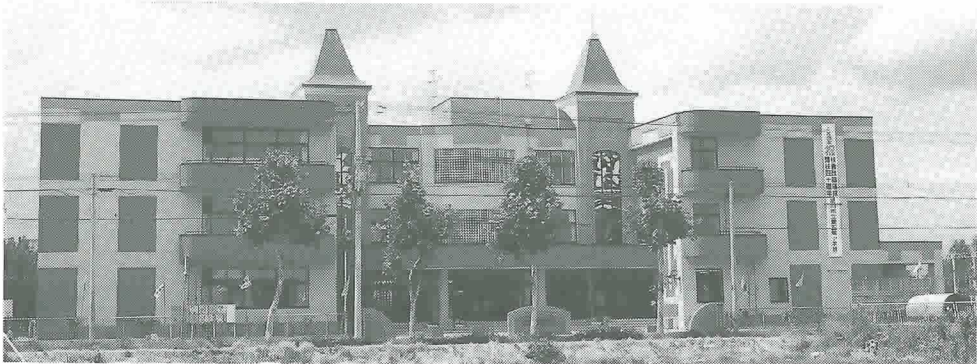
大会運営委員長 川島 信也

平成5年7月28・29日、「思いをあたため 心はずませ 創る喜びを」を大会研究主題に、第43回全道造形教育研究大会旭川大会が旭川市立東五条小学校を会場に開催されました。ここにその研究大会の集録を発行出来ますことを大変うれしく存じます。この大会には、遠くは香川県から、そして、全道各地から多数の方々のご参加をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

今大会は、前回の第36回全国大会から7年ぶりの旭川大会となり、諸般の事情で予定より一年早い旭川開催となりました。準備その他で戸惑いもございましたが、旭川市教育研究図工美術部持ち前の固い結束とセンスにより、前回にも増してよい大会となりました。

公開授業は幼稚園2、小学校6、中学校3と合計11の授業でした。どの教室も参観者の真剣な目、メモをとる姿が印象に残っております。予想以上の盛会でうれしい反面各分科会では準備した机や椅子の不足で参会者の皆様からお叱りや、お小言を頂戴致しました。責任者として深くお詫びを申し上げます。また、大会二日目の造形広場の設定では、予定の時間をもう少し延ばしてほしいとの声も聞かれました。また、奥田實氏の記念講演も自然に対峙する姿や構え方は、図工美術にたずさわる者にとっては大いに参考になり、深い感銘を与えてくれました。会場校東五条小学校のメルヘンタッチの外観と木の感触を十分に生かしたオープンスペース、そして校舎横の芝生には「彫刻の森」大会参加作品の一部展示、昼休みには、明星中学校吹奏楽部、東五条小学校器楽クラブのグリーンコンサートは暑さを忘れさせる一服の清涼剤となり参会者の心をなごませてくれたものと思います。

二日間の大会が多くの成果を残して終了することができましたのも、大久保実行委員長をはじめ、それを支えて下さった各役員や部員、会場をお引き受け戴いた東五条小学校教職員、特別な配慮をいただきました私立幼稚園旭川支部、運営にご支援、ご協力を戴きました関係者各位に重ねてお礼を申し上げます。この大会集録が明日からの新しい図工・美術の教育に役立つことを期待しております。



# 目 次

大会運営委員長挨拶

大会日程 .....	1
大会寸描 .....	2
旭川大会研究主題 .....	4
分科会一覧 .....	14
分科会討議記録 .....	16
公開授業一覧 .....	39
公開授業指導案 .....	40
大会だより（1号～7号） .....	70

表紙デザイン 工藤 齊  
(旭川市立神楽小学校)



思いをあたため  
心はずませ  
創る喜びを 〈旭川大会研究主題〉

自らの心をより豊かに  
拓く造形学習の在り方  
一人一人が造形的表現活動の  
喜びを実感するために  
〈北海道造形教育連盟研究主題〉

第43回 ● 1993

# 全道造形教育研究大会 旭川大会

会 期

平成5年7月28日(水)・29日(木)

会 場

旭川市立東五条小学校 〈旭川市東5条5丁目 TEL (0166)26-0295〉

日 程

●大会第1日：7月28日(水)

8:30~9:30      10:20      10:40~11:10      11:20~12:30      13:30~16:00      18:00~20:00

受 付	公 開 授 業	移 動	開 会 式	移 動	分 科 会 1	昼 食 アトラク ション	分 科 会 2	移 動	歓 迎 セ レ シ ヨ ン
--------	---------	--------	-------	--------	---------	--------------------	---------	--------	---------------------

○歓迎セレモニー東五条小学校太鼓    ○歓迎アトラクション(グリーンコンサート)  
東五条小学校器楽クラブ/明星中学校吹奏楽部

●大会第2日：7月29日(木)

8:30~9:00      10:20      10:30~11:50      12:00~12:20

受 付	造 形 広 場	移 動	記 念 講 演	閉 会 式
--------	---------	--------	---------	-------

記念講演

**奥 田 實 氏**  
〈日本写真家協会会員〉  
「自然をきり撮る」

主 催

北海道造形教育連盟  
旭川市教育研究会 図工美術部

後 援

北海道教育委員会/旭川市教育委員会  
旭川市小学校長会/旭川市中学校長会  
上川管内教育研究会/旭川市教育研究会  
北海道私立幼稚園協会旭川支部

旭川大会事務局

旭川市立神居東中学校 070 旭川市神居雨紛72番地 ☎(0166) 61-8298 鳥本捷夫

# 大会寸 描



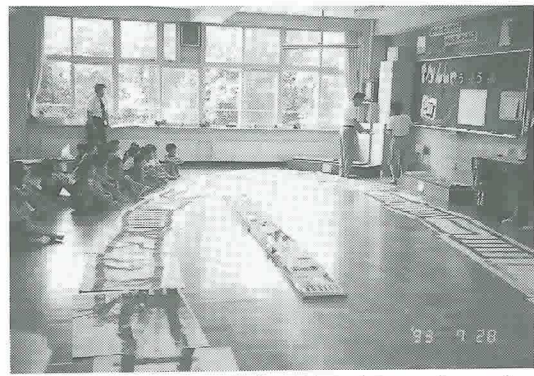
開会式に集う全道の参加者



版画も刷りの段階に入る「見て聞いて」



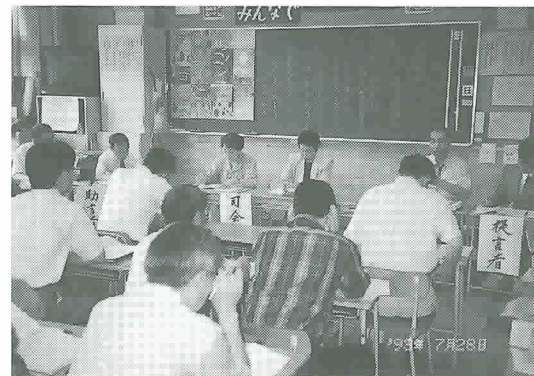
中学生の「不思議の国の〇〇さん」



小学生の「きかんしゃ うつつた」



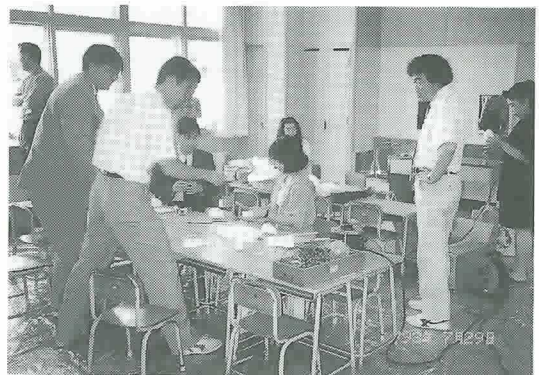
小学生の「私の家」を自分だけの色で



分科会で熱気あふれる討論



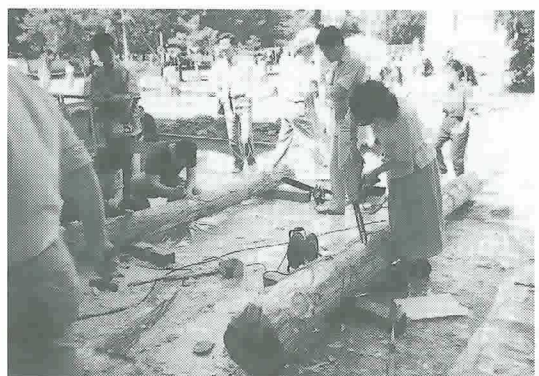
グリーンコンサート(明星中学校吹奏楽部)



造形広場 発泡スチロールを使って



オープニング (東五条太鼓)



造形広場 やってみよう、チェーンソー実技



野外彫刻



記念講演 奥田 實氏



## 研究主題

### 「思いをあたため、心はずませる、創る喜びを」

旭川大会実行委員会研究部長 伊藤 有為男

#### I 主題設定の理由

近年の科学技術の進歩と経済の発展は、情報化の進展や物質的な豊かさを生むとともに、価値観の多様化などを招き、人々の生活や意識にも様々な変化をもたらすに至った。

とりわけ我が国の経済的繁栄は、人々の価値観を大きく変え、今日では、社会全体が経済的物質的な豊かさの追求から生涯にわたる精神的なゆとりと充実を求めるようになり、これに伴って人々の芸術文化に寄せる関心も高まってきている。

このような状況にあって、これからの学校教育においては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するとともに、基礎的・基本的な内容を身に付けさせ、個性を生かす教育活動を推進していくことが求められている。このことは、感性の教育を重視する中で、自分の課題を見つけ、考え、判断し、表現できる能力や態度を育てていくことに他ならないと考える。

そのため、図工・美術科においては、生涯にわたって芸術文化としての造形美術に親しみ、実践し、心豊かな生活を築くための主体的な意欲、豊かな感性、柔軟な発想や直感力、想像力を基盤とした創造性、基礎的な造形能力の育成を目指して、一人一人の子どもの個性や創造性を伸ばす授業や子どもらしい、しかもその子どもらしい造形的な創造活動の援助を工夫していくことが課題となっている。

したがって、これからは、学ぶ喜びや表現する楽しさを十分味わわせ授業を子どもの側に立って構築するとともに指導と評価の一体化等を図る必要がある。

全道造形教育研究大会は、過去四回旭川で開

催され、その度に多くの成果を得ることができたと自負しているところであるが、中でも、

「つくる心のひろがりと深まりを求めて」をテーマとして掲げた第36回旭川大会においては、イメージを引き出し、気づきを大切にすることで位置付けた学習過程をはじめ、牛乳パックを使った家づくりや空き缶遊びなどの廃品を利用した表現や身近なものあるいは、丸太やウッドクラフトなどの材料、更には、冬のスポーツをテーマとした旭川の地域性が生きる題材を工夫するなどは、子どもの生き生きとした表現を促し、喜びをもって表現できる子どもを育成する実践として高い評価をいただいたところである。

今大会においては、こうした実践成果を継承しながら図工・美術科の担う役割を果たすため五感を働かせて判断し、試み、心を動かし、思いをふくらませながら表現していくような子どもの育成を目指すことにした。すなわち、一人一人の表現欲求や願いを十分満足させる造形活動を通して、子どもらしい想像力を働かせた創造的な表現活動の喜びを十分味わわせる授業を構築することにした。

そのためには、まず、本来、子どもは表現活動に対してどのように考え、どのような思いをもった存在かを明らかにすることが大切であると考え、次のようにおさえた

- 子どもは、五感を働かせて、からだ全体で作り出したいと思っている。
- 子どもは、思いを持ち、様々に試したいと思っている。
- 子どもは、自分らしい素敵な夢を表現したいと思っている。
- 子どもは、知恵やわざをみがき、表現したいと思っている。

また、このような子どもの思いや願いを援助していく教師の在り方として、次のような姿を考えた。

- 子どもの自由な発想を認める柔軟な感性をもつ教師でありたい。
- 子どもの主体的活動を温かく見守り、よき相談者としての教師でありたい。
- 子どもの様々な表現を、その子の魅力であると共感できる教師でありたい。

このような考えを基に、子ども一人一人の確かな表現や感性の高まりを目指し、本研究主題を設定したのである。

## II 主題について

子ども達にとって表現とは、自分の感情の動きによって生じた一つの思いのまとまりのイメージを、何らかのかたちにする行為であり、何らかの方法を選び、表現しながらより明確にしていくものである。したがって、豊かな体験（魅力ある題材等）との出会いや、心を動かす体験を通して、思いをより確かなものにしていくものでありその思いが生かされたとき、子ども本来の生き生きとした表現になっていくと考える。

このようなことから、本研究主題で目指すものを、次のようにおさえている。

### 『思いをあたためる』とは

子ども一人一人が、自分の好きな形や色、材料などで表したり、つくったりする活動を楽しむには、様々な事柄やものに興味・関心をもち進んで見たり、触れたりして、自分なりに表現したいという思いが表れ、より確かな思いへとふくらむ環境が必要である。

そのためには、子ども達一人一人が、五感を働かせ、心を動かし、表現への思いを巡らす多様な体験や地域の自然や身近な素材との出会い地域の人々との心の交流など、地域環境を生かした直接体験や生活実感を豊かに味わうことのできる豊かな体験などが大切となり、このような体験によって、つくる心、みつけだす目、つくる姿勢に刺激を与え、表現したいという欲求

が高められるものとする。また、子ども達はいろいろな材料を集めながら、あるいは、その材料に触れたり、組み合わせたりする遊びの中から自分の思いをより確かなものにしていくのであり、このような活動を通して子ども一人一人の感性をより豊かにしていくものとする。

このようなことから、子ども達一人一人が、表現への思いを主体的により確かなものへとあたたためていく活動を重視していくことにする。

### 『心はずませ』とは

自分らしい思いを持つことは、個性をつくりだす源となり、その子らしい思考、判断、表現や活動を生み出すエネルギーとなる。そして、自分らしい思いが生かされたとき、意欲が高まり、自分の思いに基づいた主体的な表現活動を促され、「こんな材料・用具で、こんなことを試したら、いったいどうなるだろう。」などと更に思いをふくらませ、より豊かな思いへと自分らしさを発揮していくものとする。

また、子どもは、自分の思いが生かされたとき、自分らしい課題を見つけ、その解決に向けて取り組み、試行錯誤を重ねることで思いを広げ、深めるという創造的な活動を展開していくものであると考える。

このように、子ども達は本来、素直に、いろいろなものにかかわり、感じ、考え、試み、夢を描くものであることとおさえ、表現活動の過程において、子ども一人一人が心はずませて活動できるように教師が支援していくことが大切であると考えた。

## III 主題にせまるために

思いあたため、心はずませ、創る喜びのある活動を進めるためには、活動を子どもの側に立って考え、子どもの心の内面に呼びかけ、その子の表れの全てをよさとして共感していくことが教師に求められている。

このようなことから、教師は、子ども一人一人の考えや思いを受け入れ、子ども達一人一人への思いをこめた提案や思いが広がる教材の開発など、子どもの実態に応じた教材研究を一層

深めていくとともに、子ども一人一人の造形に対する傾向・意欲などに対応した適切な指導内容・方法を用意し、自分で考え、判断し、選り出し、つくり出すという自主的な態度を身に付けさせるようにすることが大切である。更に、子ども達一人一人が豊かなアイデアを持ち、創意工夫を加えながら、よさを発揮していくための創造的な技能を育てていくことも大切である。このように、思いをあたため、心をはずませる創造活動の実現を目指して、子ども一人一人の活動を共感的に受け止め、それを支援していく学習の在り方を求めていくことにした。

#### IV 研究仮説

子どもの自由な発想や表現意欲を高める題材の開発と個性を生かす学習課程や指導方法、指導と評価の一体化を工夫することによって、自分らしい課題を見つけ、喜んで取り組む主体的な表現活動が促され、感性豊かな子どもをそだてることができるであろう。

#### V 研究の視点

これまでの実践の成果を基盤にして、子どもの側に立った教育活動の展開を通して、一人一人の感性の高まりを求めるために、次のような観点に立って研究を推進することにした。

##### 1 題材の開発

- 子どもの多様な発想を引き出す、地域の自然や文化を活用した教材の工夫
- 指導のねらいに即し、一人一人の思いを深める教材の工夫

##### 2 指導課程の工夫

- 子どもの心をはずませ、創造的な表現意欲を高める教材や材料との感動的な出会いの場の設定
- 子どもの心をゆり動かし、感動体験を与える場の設定  
(思いをじっくりあたためる場の設定)

- 子どもが題材と深くかかわり、主題に基づく豊かな発想を促す場の設定  
(ドラマチックな場づくり…資料提示の工夫や教育機器の活用等)

- 思いに応じて、心はずませて表現する時間や場の設定  
(表現の方法や技法・材料の選択、子どものリズムやペースでも表現への援助)

##### 3 評価の工夫

- 表現意欲を高め、表現の喜びを味わわせる評価の改善  
(評価観点の位置付け、自己評価の活用、学習カードの活用、指導・援助の工夫)

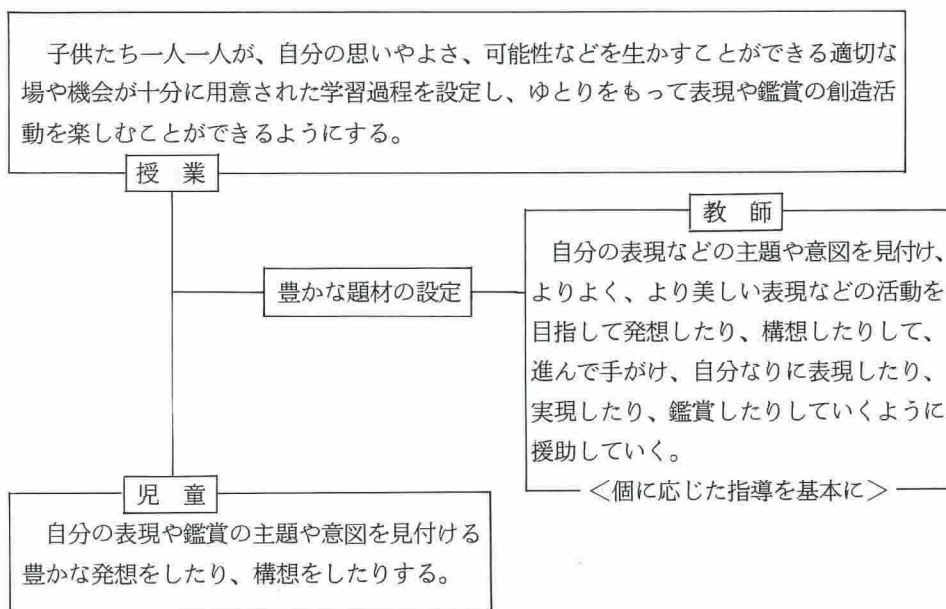
#### VI おわりに

本研究会のテーマ及び内容等については研究部員を中心に一昨年来検討し、実践を重ねてきた。

なお、研究に際し、北海道教育庁上川教育局・旭川市教育委員会関係各位のご指導をいただき、特に上川教育局川上典指導主事および北海道教育大学旭川校助教授武田薫先生には共同研究、参考資料の提供をいただきました。

＜新しい学力観に立つ授業の構想と創造的な展開＝基本的な考え＝＞

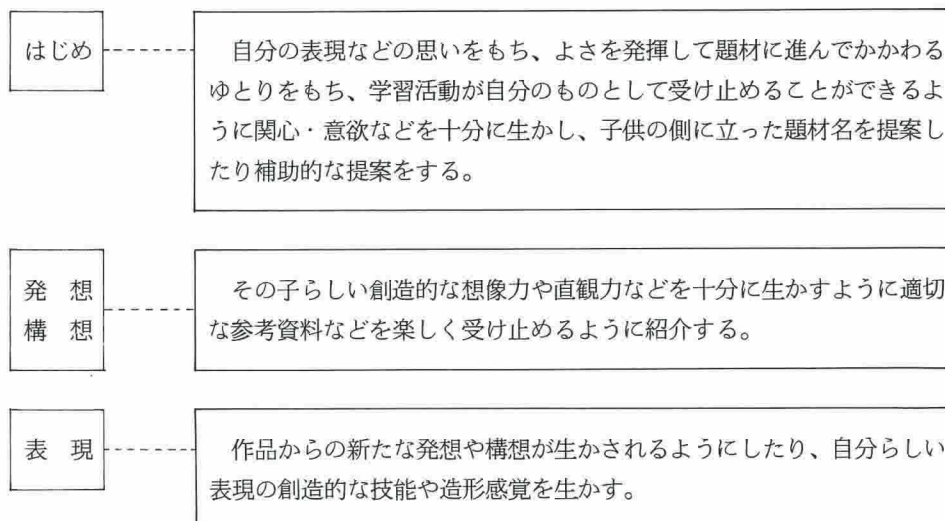
1 授業の構想



2 創造的な展開

子供たち一人一人が進んで手がけ、より望ましいかたちで、よさを発揮し、豊かな自己実現としての学習活動を展開する。

また、表現のための材料・用具、表現方法、大きさなど、可能な限り、子供が自分の表現の思いに合わせて選ぶようにして、よりよい表現のための創造的な技能などを見付けるような提案を行うことが大切である。



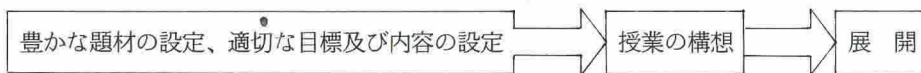
### 3 よさや可能性を生かす教育姿勢・構え（教師のよさ）

- ① 子供たちが自分らしい表現などの主題や意図を見付けることができるように子供たちの思いを感じながら、さわやかに提案や支援をする。
- ② 子供たちが進んで自分のよさや可能性を発揮する場や機会をひろげる。
- ③ 子供たちがよさや可能性を生かして、思いのままに動き、試みることができる創造的な雰囲気をつくる。
- ④ 子供たちがよさや可能性を生かすゆとりやチャンスをつくる。
- ⑤ 子供たちが学んだことを生かしたり、気になることなどを確かめたり、自分の表現などの行為などを温めたりする場や機会をつくる。
- ⑥ 子供の側に立って、子供のよさや可能性を感じ、学ぶように、幅のある共感的な認めをする。
- ⑦ 子供たちが自分の思い、考え、判断、表現などのよさや可能性に気付くようにする。

#### < 授業構想の実際 >

##### 1 子供たちの実態の把握（共感的な理解）

- ◎ 授業にかかわることを中心にした子供一人一人の実態を適切に把握する。（総合的に）  
子供一人一人の表現の思いや意図、発想や構想、具体的な表現の在りようなどのよさに共感したり、個に応じた適切な提案などによる支援のために必要である。



##### 2 豊かな題材の設定（授業の要）

- ・ 題材とは、目標及び内容、材料・用具、表現方法・過程、指導方法などを総合的に構想したまとまりのことである。
- ・ 題材名とは、題材の総称であり、子供たちが自分らしい表現の思いや主題、意図などを見付け、望ましい学習活動を進んで展開するようにすることを重視して子供たちのために付けられるものである。

###### (1) 学習の主題の設定

題材の目標や内容などを総合して示し、その学習活動の意義などを象徴的に表し、この趣旨に基づいて授業を構想し、展開する。

したがって、授業で目指す資質や能力、学習指導要領に示された目標及び内容、子供の実態などをふまえて設定する。

###### (2) 豊かな題材の選択

題材とは、子供にとっては学習活動のまとまりのことであり、教師にとっては、学習指導のまとまりである。つまり、指導の目標及び内容、学習や指導の計画、方法などが総合的に構成されたまとまりである。

したがって、子供たちの関心や経験などの実態を十分考慮し、よさや可能性を發揮して学習したり、題材のよさからも学ぶようにする観点から選択することが大切である。

### (3) 題材名の工夫

子供たち一人一人が、学習の主題の趣旨にそった学習活動ができる表現や鑑賞の思いや主題、意図などをもつことができるようにするとともに、想像力をはたらかせて表現や鑑賞の創造活動のイメージが心の内に描けるようにする。

したがって、短い表現でなければならないということではなく、複数で表現したり、補助的な題材名を付けたりするなどの工夫が必要である。

いずれにしても、題材名は、創造的な学習活動へ子供たちを案内するはたらきをしたり、「このような活動はどうか」というように表現の発想や構想などをふくらませるようになるための提案であり、図画工作科の学習活動の重要な役割を担っている。

### (4) 授業（学習活動）の意図と可能性を明確にする

授業（学習活動）の全体構想と授業の意図や可能性を明確にするとともに、子供たちの実態、よさや可能性を生かす指導の工夫の要点を明らかにする。

### (5) 指導の目標の設定

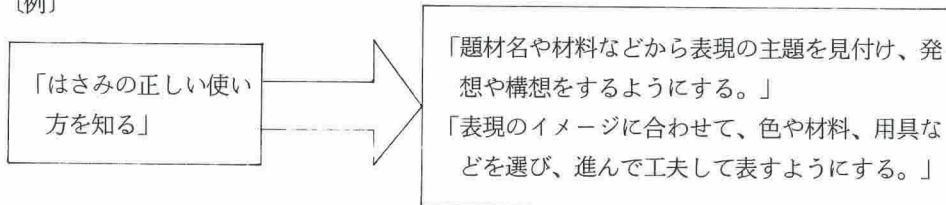
題材の指導の目標は、学習指導要領に示された学年の目標や内容、観点別学習状況評価の観点、子供の実態などをもとに設定する。

その際、授業で期待する子供たちの望ましい姿が具体的にイメージできるように表現する。

### (6) 内容の設定

指導の目標にそって活動する具体的な姿で示す。

〔例〕



### (7) 指導の計画の工夫

- ・ 子供たちが自分のよさや可能性を發揮しながら図画工作科の目指す資質や能力を獲得するよ  
うな学習活動が展開できるおよその学習の過程を示す。
- ・ 子供たちの学習経験などの実態、一人一人の表現の思い、発想などのよさが發揮できるよ  
うにする場や機会を明確にしておく。
- ・ 学習に充てる時間は、同じ題材であっても、子供たちの学習経験や関心などの違い、指導の  
重点のおき方などによって異なるものであり、柔軟な計画を作成する。

### (8) 準備の工夫

- ・ 準備には、材料や用具の他、環境を構成することも含まれ、子供たちの経験などの実態、関  
心、表現のひろがりなどを考慮する。
- ・ 子供たちが、進んで自分の表現や鑑賞などの学習活動に合わせて準備することも大切であり、  
表現などの活動のひろがり期待できる。
- ・ 材料などについては、学習活動ごとに限定するのではなく、どの学習活動においても自分で  
選んで活用するようにする。

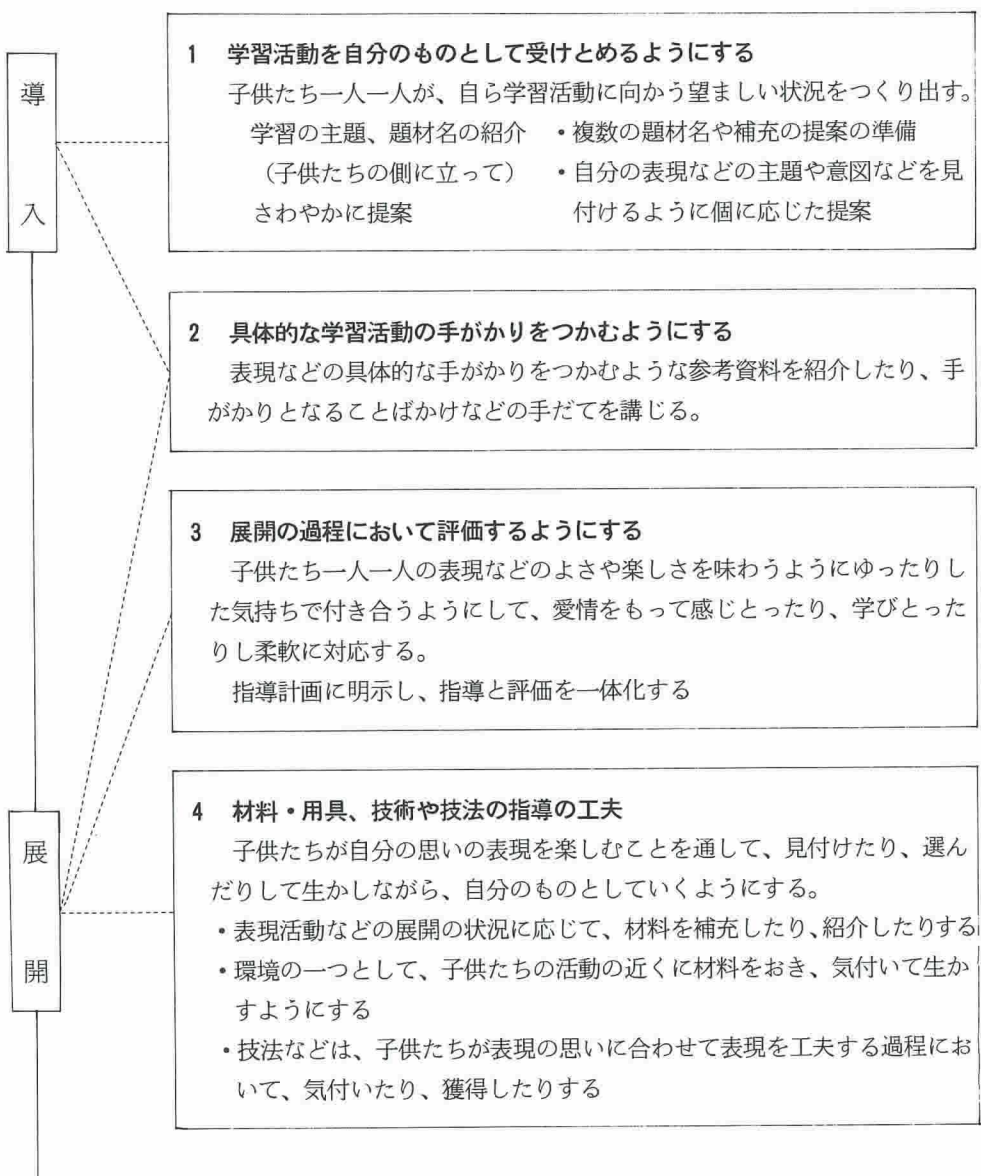
### (9) 評価の観点と工夫

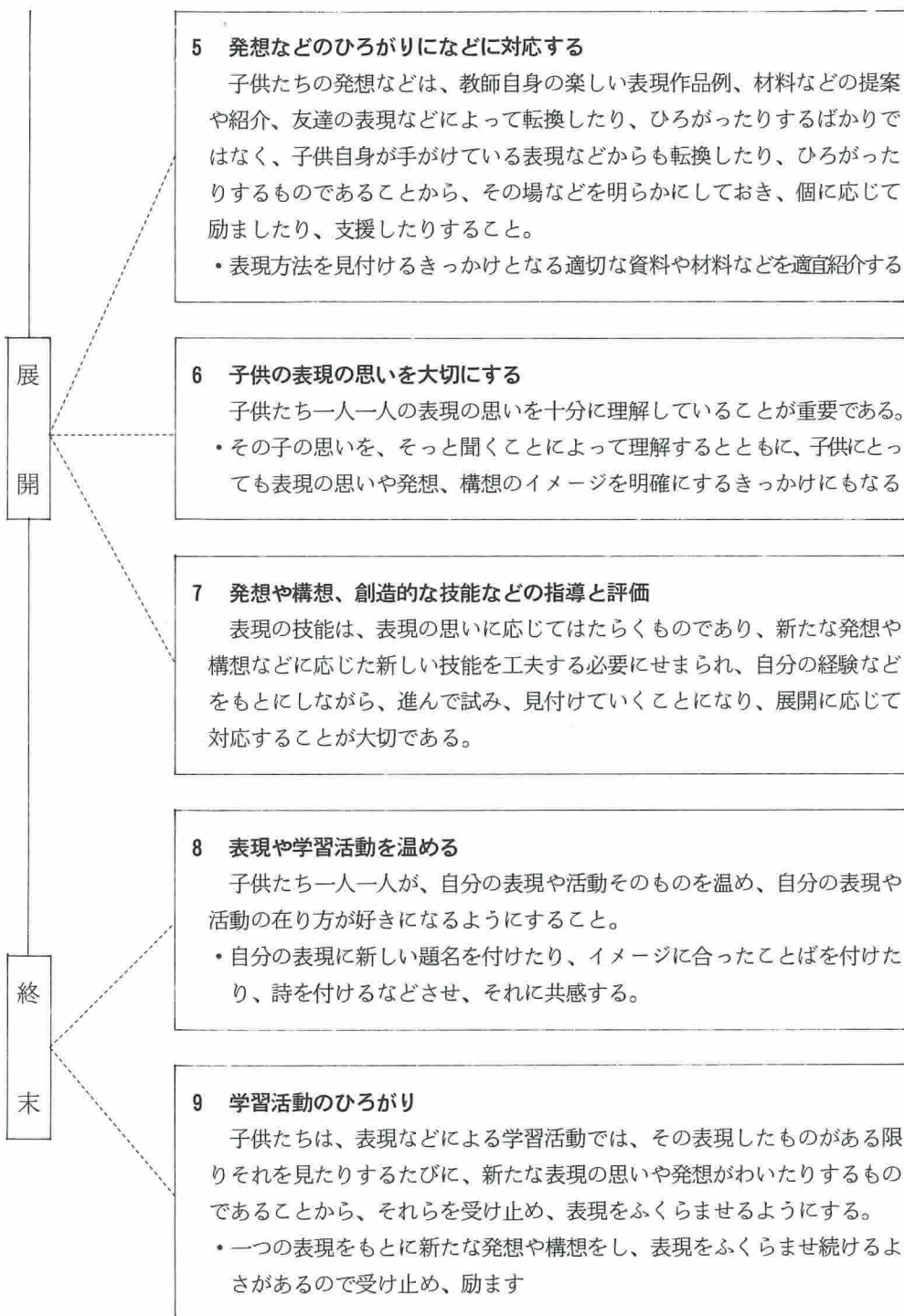
指導の目標に対応するように評価の観点などを設定し、指導に対応するかたちで評価の場や機会などをおよそ設定し、子供たちの学習活動の展開の流れの中でも、いつでもよさを共感的に評価するようにする。

観点別学習状況評価の観点に示す資質や能力が具体的になっている

#### ＜授業の創造的な展開＞

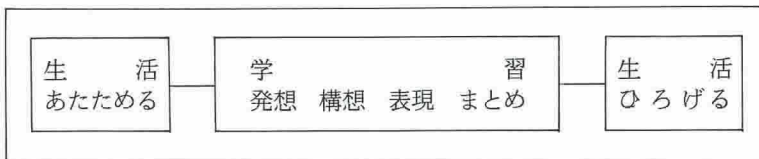
子供たちの学習活動の流れとそれを支援する教師の活動及びよさを生かす手だてや姿勢が快くひびき合うようにする。＝柔軟に対応すること



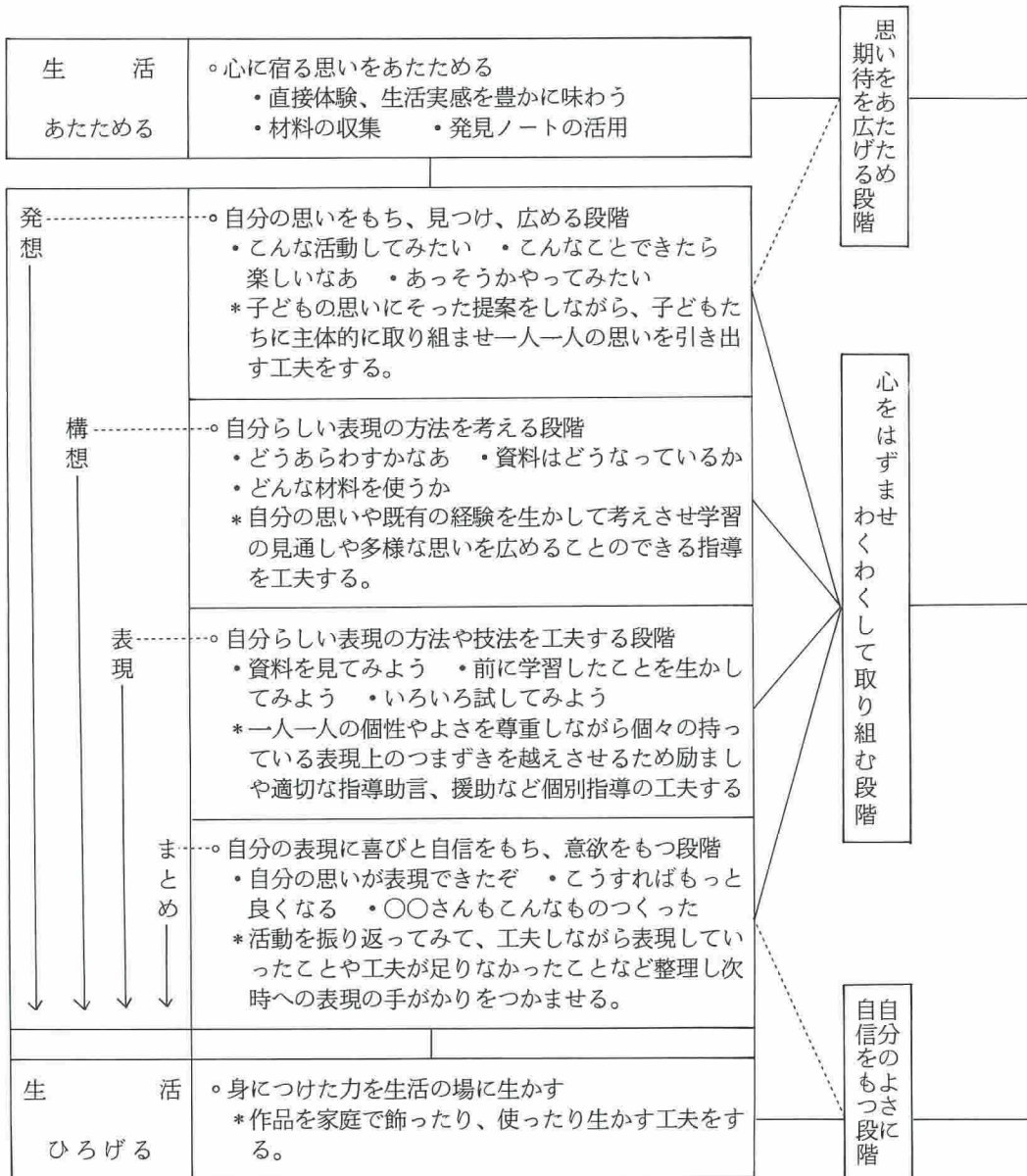




## 学習の基本過程



## 各段階での指導の工夫と手だて



- 一人一人の興味・関心の把握
- 楽しい遊びと豊かな経験をさせる (直接体験や生活実感の拡充、より良い人間関係の育成)
- 他領域等との関連も図る。 (生活科、特別活動、クラブ・部活動、選択教科)
- 良い作品に多くふれさせる。 (作品に親しむ環境づくり)
- 表現への思いが広がり、深まる題材を選ぶ。 (子供にとって魅力ある題材、くらしに結びついた題材)
- 新しい素材を教材化する。 (地域素材の発掘)

- ◎ 学習活動を自分のものとして受けとめるようにする。
- 子どもの側に立って題材名等をさわやかに提案をする。 (創造活動への入り口、発想を広げ、ふくらませる)
- 表したい自分の思いをはっきりさせる。 (目標の焦点化)
- 制作の見通しを持たせる。 (計画性)
- ◎ 具体的な学習活動の手がかりをつかむ。
- 参考作品を見せる。 (適切で豊富な資料)
- 見る角度や立場をかえて見させる。 (発想の転換)
- 材料や用具、技法を選ぶ。 (表現への思いから選ぶ、日ごろより材料を保管する)
- 文章などで表現させる。 (イメージの焦点化と定着)
- 教育機器を活用する。 (見方、感じ方、考え方の拡大)
- ◎ 一人一人の子どもの思いを大切にする。
- 表現意図に合った材料、用具の正しい使い方をさせる。 (技法を自分で試み、見つけていくことも大事にする)
- いろいろな試みをさせる。 (試作や図示)
- 表現に自信を持たせる。 (その子らしい思いに共感する)
- 思いのままに考え、動ける発問する (教師の発問の工夫)
- よりよい方法を見つけさせる。 (子どもたちの相互発見)
- 既習事項を表現に活用させる。 (豊かな学習経験)
- 表現の結果を見直しさせる。 (次時制作への改善)

- お互いの良さを認め合わせる。 (作品展示の工夫と充実)
- 関連性のある題材を配列する。 (表現意欲の持続と発展)
- 身についた力を生かす場をつくる。 (環境への働きかけ)
- 作品を家庭で飾ったり、使ったりさせる。 (生活に生かす)
- 自主作成、自由研究の発表の場や活用場をつくる。 (意欲の持続と自己充実)

# 分 科 会

## ・分科会 1

校種	No.	内容	テ ー マ	提 言 者	助 言 者	司 会 者
幼稚園	1	表	よるこびを体いっぱい に表現する造形活動 幼児の絵からのつぶや き⑤	平 広子 旭川・くりの木幼 長尾 寛子 旭川・ふたば幼	大谷 勝美 旭川・わかば幼・長	梅田 楷宗 旭川くりの木幼長
小学 校	2	造	その子らしい表現を試 み、楽しむ造形あそび	紙谷 恒 旭川・高台小	渡辺 正勝 旭川・台場小・頭 北村 昶 比布・中 小・頭	玉手 稔唯 旭川・永山中 鴻江 茂 苫小枚・大成小
	3	絵	その子らしい思いを持 ち、広げ、表現する絵 画指導のあり方	氏家 貞 旭川・近文小	築山 尚明 旭川・雨粉小・頭 木村 典義 美深仁宇布小中長	市野恵美子 旭川・向陵小 堂下由紀子 江別・江別第二小
	4	つ立	その子らしい思いや願 いで、思いきり表現す る指導のあり方	菅原 敏光 旭川・旭川第三小	重山 恵 旭川・新富小・頭 波多野恭輔 名寄・名寄東小・長	石道恵智子 旭川・末広北小 内山 博之 釧路・教大附小
中学 校	5	絵	一人一人が表現の主題 を持ち、生き生きと個 を表現する絵画指導の あり方	川合 薫 旭川・明星中	中西 清治 旭川・東陽中・頭 小杉 正典 富良野・布部中・頭	青木 新治 旭川・緑が丘中 田丸 公記 余市・東中
	6	デ工	一人一人が表現の主題 を持ち、生き生きと個 を表現するデザイン、 工芸指導のあり方	小笠原信志 旭川・広陵中	五十嵐一之 旭川・緑が丘小・頭 山理 利春 富良野・山部中・長	小松 吉隆 旭川・六合中 阿地信美智 留萌・港南中
	7	彫	一人一人が表現の主題 を持ち、生き生きと個 を表現する彫刻指導の あり方	品田 潤 旭川・光陽中	宮川 昭雄 朝日・朝日中・頭 奥野 郁男 札幌・石山中・長	原 完 旭川・永山中 土谷 敬 函館・教大附中
高校	8		中高の美術の連携を考 える⑥ 新指導要領と高校美術 教育⑥		平田 和也 旭川・竜谷高	佐藤 範夫 旭川・旭大高

・分科会 2

運営・記録者	校種	内容	提 言 者	助 言 者	司 会 者	運営・記録者
赤井 美江 旭川・めばえ幼 迦西 晃子 旭川・せつれい幼	幼稚園	交	講師 原 良三旭川・旭川中・長		山中 実 旭川・ふたば幼・長	赤井 美江 旭川・めばえ幼 迦西 晃子 旭川・せつれい幼
沢口 容子 旭川・愛宕東小	小学	造	阿部 宏行 札幌・中央小 渡辺 貞之 深川・深川小	助言者、司会者、運営・記録者については、分科会1 に同じ		
川村由美子 旭川・東町小		絵	添田 好美 雄武・豊丘小 佐伯 進 室蘭・高平小			
赤島 吉昭 旭川・旭川第二小		つ立	大田 哲嗣 旭川・春光小 中村 吉秀 函館・旭岡小			
鳥本 淳子 旭川・神居中	中学校	総	坂野 潤治 旭川・教大附中	萩原 常良 美瑛・美進小・長	大口 優 旭川・六合中	吉永 一江 旭川・春光台中
成田 慎司 旭川・光陽中			森 富輝 釧路・美原中	武田 薫 旭川・教育大旭川 助教授	関 秋宏 旭川・神楽中	
沢田 克之 東川町・東川中			影山 美香 帯広・帯広第六中	川上 典 上川教育局 指導主事		
	校		中村 靖 富良野・金山中			
宮崎 和夫 旭川・東栄高	高校		山口 幸彦 旭川・南高 斉藤 健昭 旭川・東高	平田 和也 旭川・竜谷高	木村 勝男 旭川・北高	川口 幸和 旭川・西高



# 分科会討議記録 ▶



## 分科会 1 幼稚園（表現あそび）

司会者	旭川くりの木幼稚園々長	梅田 楷 宗
助言者	旭川わかば幼稚園々長	大谷 勝 美
提言者	旭川くりの木幼稚園	平 広 子
	旭川ふたば幼稚園	長尾 寛 子
運営・記録者	旭川めばえ幼稚園	赤井 美 江
	旭川せつれい幼稚園	迦西 晃 子

### 1. 分科会テーマ よろこびを体いっぱいに表示する造形活動



### 2. 提言要旨

両園では、子供達を作ったり、壊したりと自己の創造性を発揮しながら造形活動を行っており、その中で感性が育ち、友達との協調心が育ってきているように思われる。しかしその活動は、日常共に活動している友達感の交流になっているので、この機会に、その友達の枠を大きく広げ、新しい友達と混わり新しい友達を発見し、共に遊ぶ活動を、ねらいとして合同保育となった。

この合同保育を実践する為には、園児同志の触れ合いが大切であり、慣れ合う事も考え、園児の交流会を2度行なった。第1回目の交流会では、両園の園児を混合し、玉入れ、綱引き、障害物競争を行ない、2回目の交流会では、公開保育を念頭において、動物作りと材料の確認、環境設定をどうすべきか、園児の活動内容の理解を目的に行なった。

2回目の交流会を行なった後での問題として、園児達は動物作りを活発に行なっていたが作った動物で遊ぶまで発展しなかった事、又、積み木で「おり」を設定していたが、陸にいる動物だけではなく、海にいるタコやイカなどを作った子供もいて、「海があったらいい。」などの声が聞かれた事、そして、やはり園児は、それぞれの友達との交わりが多く、新しい友達との交わりが見られなかった事の問題点を、いかに公開保育に生かすか検討した。

その結果、子供が欲求した環境を、子供達ならこの様に作り出すだろうと思い設定し、子供達が入り込みやすい様に配慮した。

3. 公開授業 題材名 全員が楽しめる造形活動をめざして ～動物を作って遊ぼう～  
授業者 平 広子(旭川くりの木幼稚園) 長尾 寛子(旭川ふたば幼稚園)  
両園の園児が混じり合って作れるかと思ったが、環境の違い、多数の先生の参観もあり、十分に構築されなかった。又、場所も広く使おうとする子もいなかった。  
今後も、両園の交流を深めていくつもりである。

#### 4. 研究討議の内容

- ① 動物のイメージを大切にすることとは、どういうことか？  
② 広く会場を使わせる為に、言葉がけをしていたが、子供達にはイメージされていなかったのではないかと？  
(提言者) 子供達には言葉がけをしたが、つたわらなかった為、反省点でもある。  
③ 楽しく遊ぶということの評価は、どうだったか？  
(提言者) 2回目の交流会の時は、あまり見られなかったが、今回は「はねかえる」などの製作物で遊ぶ姿も見られ、前回よりも良くなってきた。  
④ 海や木を教師が、用意したのはどうしてか？  
(提言者) 保育日程の関係もあった為、時間がなかった。  
⑤ 合同保育を行なう上で、どのように1人1人を把握しているのか？又、記録はしていたか？  
(提言者) 広いスペースの中で、2人の担任だけでは、手がまわらないので、援助の先生方にも、子供達の様子を見てもらっていた。記録として、ビデオを撮っていた。  
⑥ 合同保育をしたいという、大きなねらいは？  
(提言者) 友達の枠を大きく広げる為である。  
⑦ 2人の先生の役割分担は、どのようになっているのか？  
(提言者) 朝の活動で、各園の子供の様子を見たり材料の説明などを行なった。  
⑧ 縦割り保育を行なっているのか？  
(提言者) 両園とも、自由遊びの日(くりの木幼稚園)、自由活動日(ふたば幼稚園)と題して縦割り保育を行なっている。

#### 5. 討議のまとめ

- 合同保育を通じて、素晴らしい研究ができている園もあるので、先生方が持っている得意分野を話し合って密にすると、もっと良い物ができる。
- 造形活動は、子供にとって大切である為、その環境で楽しい刺激を園児に与えると、子供達は目の前の想像で1つの作品を作ることができる。
- 遊びの中で、丹念さ、丁寧さを1つ設定して、保育を進めていくと良いのではないかと思われる。

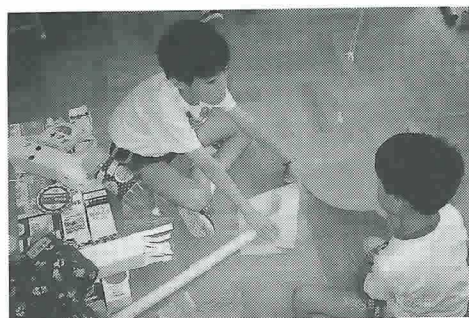
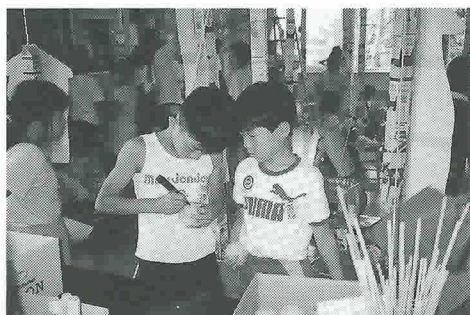


## 分科会 1—(2)

### 小学校（造形あそび）

司会者	旭川市立永山小学校	玉手 稔 唯
	苫小牧市立大成小学校	鴻江 茂
助言者	旭川市立台場小学校教頭	渡辺 正 勝
	比布町立中央小学校教頭	北村 昶
提言者	旭川市立高台小学校	紙谷 恒
運営・記録者	旭川市立愛宕小学校	沢口 容 子

#### 1. 分科会テーマ その子らしい表現を試み、楽しむ造形あそび



#### 2. 提言要旨

- ・ “創る喜び”を感じて取り組む造形活動は子どもの活動のありのままを大切にし、子ども自らが学んでいくという自主的な態度を身につけさせることが重要である。  
「造形あそび」は、子どもの自由な表現や多様な表現方法で自らが自己の世界を切り開いていく主体的な学習を保障する場であり、新しい時代の教育に重要な役割を担っている。
- ・ 子供を主体に、個性を重んじそれぞれの思いのままに表現を楽しませるといった課題をもって、低学年は、土・砂・木・人工物の形や色をもとに並べる・つなげる・積む等を中心に、表現の喜びを味わいながら活動させる。また中学年は、材料を組み合わせる・仲間と一緒に行動する・素材を選択・収集する等で発想を豊かに広げることができると考える。
- ・ 子どもたちに、自分の思いを自由に、のびのびと喜びを感じて、造形活動をさせるためには、子どもたちの多様な表現を認め、励まし、手だてを工夫して、意欲的に取り組ませることである。子どもに学びながら、子どもの心を読み取る指導に真剣に取り組む息の長い研究と実践が必要である。

#### 3. 公開授業 題材名 うつつた うつつた（1年）

授業者 坂本 幸（旭川市立東五条小学校）

- ・ 授業者より
- ・ 多勢の人に見られているため、始めは緊張していた子どもたちであったが、活動が進むにつれ、緊張もほぐれ、活発に活動し、日常の自分を出していた。
- ・ 豊かな表現活動をさせるためには、日ごろからの材料集めが大切で、素材・描画材料・用具等も研究しておかなければならない。また材料等によっては高価なものもあり、お金がかかりすぎる場合もある。
- ・ 一年生は、チョーク遊び・砂遊び・どろ遊び等の活動があるが、砂遊びはアトピー性皮膚

炎のため靴を脱いで遊べない子ども、どろ遊びは場所や後始末のことを考えるとむずかしい時もある。

題材名 何ができるかな——ガンバの森——

授業者 宮本 佳世（旭川市立東五条小学校）

- 授業者より
- 子どもたちは、計画段階から大変積極的に教師の助言等まったく必要ないぐらい集中し、喜んで活動していた。
- 材料集めにしても、大人では思いもつかないような材料も用意し、子どもの豊かな発想には驚かされた。
- 今回のような材料を使っただけの造形遊びでは、材料・用具集め・作品の製作中の保管場所等大変であった。

#### 4. 研究討議の内容

- (1) 材料集め、材料の使い方の工夫について
  - わくを決めないで自由な発想をさせたいという教師からのなげかけにより、子供達は自分達で考えて、野菜等形を作って持って来ていた。また教師側は、発泡スチロール、ラップの芯等を用意した。（1年）
- (2) 造形遊びに入る時の最初の投げかけについて
  - 4月当初、誕生列車を作って掲示したが、子ども達から機関車も作りたいという声がおこり、参観日に親子で機関車作りをした。すると、その機関車に乗って走らせる線路を作りたい、またその線路のまわりをにぎやかに飾ってみたいとすすんでいった。（1年）
  - 日ごろゴミとして捨てられる牛乳パックを使って、ゆれ動く柱状のものを作り、動かしたり遊んだりしていたが、この柱でガンバ学級の「ガンバの森」を作ろう、そして、その森で遊んでみようとするんでいった。（4年）
  - 1年、4年とも、学級のシンボルと子どもの意識をかかわりあわせて、発想豊かに、活発な活動をさせていくことができた。
- (3) 造形遊びの時のスペースについて
  - 子ども達の自由な発想を大切にのびのびと取り組ませるには、広い場所が必要な場合が多いので、作品の製作途中での保管場所、完成作品の展示場所等の確保がむずかしい。
- (4) 教師の指導、助言のあり方について
  - 広い場所で、学年単位の授業であれば、チームテーチング方式をとり全員により行きとどいた目を向けてやるという方策もある。

#### 5. 討議のまとめ

- 1人1人が自分のイメージを作品の中にどう生かすか緊張感の中に迫力が感じられた。
- 造形遊びの発展として、2人でやってみては、3人では、グループではと進むと、意見を出し合う、相談する、自分の役割を果たす等の中から意欲がより大きく芽生えてくる。
- 材料集めも遊びの中からグループ同志で探し出し、置いたり飾ったりすることにより、完成した時の喜びも1人の時より大きくなると思う。
- 学級の全員が生き生きと取り組んでいたのは、開かれた安定した学級づくりがもたれている。

## 分科会 1 — (3)

## 小学校 (絵に表す)

司 会 者	旭川市立向陵小学校	市 野 恵美子
	江別市立江別第二小学校	堂 下 由紀子
助 言 者	旭川市立雨紛小学校教頭	築 山 尚 明
	美深町立仁宇布小中学校長	木 村 典 義
提 言 者	旭川市立近文小学校	氏 家 貞
運営・記録者	旭川市立東町小学校	川 村 由美子

## 1. 分科会テーマ その子らしい思いを持ち、広げ、表現する絵画指導のあり方

## 2. 提言要旨

- 情報化社会で、色・形があふれており、その中から自分に合ったものを選び出す能力をゆりおこす為、五感をしっかり働かせ、多くの体験をさせる。
- 完成作品の評価のみに終わらず、その活動過程を重視する中で創造的な活動の能力を伸ばす。その為、課題の提示や援助の仕方を明確にする。
- 授業の中で自分の課題をしっかりとつかませることにより興味・関心をよびおこす。
- 自分の思いの表現として意欲が感じられるのなら加点法で励ますようにする。
- 題材は子供の側にたち、実態の把握や技術的なものを考慮に入れ、思いを広げ、膨らませられるように考慮する。
- 一人一人の発想の素晴らしさを自信をもって表現できるよう、励ましや、自由な雰囲気を作り、日常生活の中でも自然とのふれあい、人のかかわりなどを重視する。
- 素材、用具、材料に関しては、できるだけ多く体験させ、自分の思いや自分らしさを表現する為、選択できるようにする。
- 今後、子供の側にたった援助の仕方や題材の開発が必要。評価は学習カード・チェックリスト等の効果的な活用など、評価と指導の一体化を図ることが大切。

## 3. 公開授業 題材名 私の家 (5年) 授業者 武田千恵美 (旭川市立神居小学校)

## ◎授業者より

- 情報化社会で模倣したり受け身になって流されることが多いので、自分なりの形や色を発見させ、その中には自分の思いを入れることができる身近な「家」を題材にもってきた。
- 家についての思いを文章化し、自分なりにイメージ化して表現する中で自分の生き方もみつめることができればと思った。
- 子供は自己中心的な傾向にあるので、お互いに鑑賞し合い、友達の考えや表現の仕方を理解しあって認め合うことができればと思った。
- 五年の初めから、五分間イメージスケッチ (例、長いものから想像するもの)、色のイメージ作り (例、赤トンボから想像する色) で自分の形や色を発見し、発表していった。
- 絵本作りでは一場面ごとに画材を変えて行い、本日の授業でも用具、用紙は多種多様の中から選ばせ、自分独自のものが描けるようにした。

題材名 見て聞いて驚いたあの修学旅行 (6年)

授業者 横川香代子 (旭川市立永山小学校)

#### ◎授業者より

- 日常生活に感動感激する場面が少ないので、印象深い修学旅行を題材にした。
- 版画には、下絵、版に描く、墨入れ、彫りなどいくつかの制作過程があり、彫っていくうち創作意欲が湧いて興味をもつのではないかと思った。
- 五年の後半から、形をしっかりとみる為の人物デッサン、イメージスケッチ、日記に自分の思いや気持ちを書くようになってから発表させたりした。
- シャガールやピカソの絵を鑑賞させたりして、イメージ化する方法も学んだ。
- ハムあそびとして手を彫ってみたり、釘や石で彫ってみたり、陽刻を意識化させる為、顔だけでも彫ってみた。
- ビデオを見ながら感動場面を思い出させ何枚も下絵を描き、何を表現したいか、深く自分の思いが残っているのはどこか、話し合いながら下絵を完成させた。

#### 4. 研究討議の内容

- パレットの大部屋で二色の混色で多くの色ができることを見せたので、大部屋を使う児童が多かったが、基本的には自由に自分の判断で使わずようになっている。
- 色調の指導は、色の多種の表わし方（ブラシでぼかす、和紙を貼る、コンテを使う等）を体得させながら、満足するまで絵を変化させ、自分なりに表現していく方法をとっている。
- 自分の体験を通して湧き出てくる思いを画面に表わすようにした。少々形がくるとも良いということや、デフォルメの仕方を教え、自分なりの形が出来ると友人との比較がなくなり、それなりの満足感もあった。
- 一番感動したことを「こうしたらよいな。」「こうなったらよいな。」という気持ちを入れ、自分自身の姿も画面に登場させてかわりを持たすようにした。
- 従来のように、デッサン力、構成力、彫りの技術を重要視したのに比べ、感情を入れ形を自由にデフォルメさせると、描くのが苦手という感覚がなくなり、意欲的に描くようになった。

#### 5. 討議のまとめ

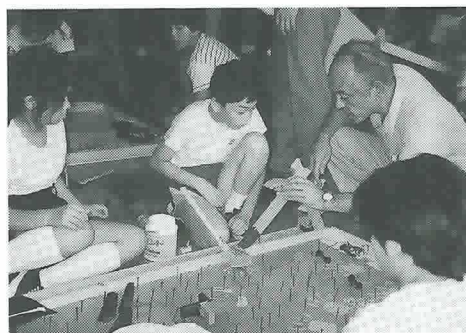
- 旧指導要領を否定し、今までのやり方が全くだめというのではなく、それぞれの特徴を認めるのがよい。
- パレットの使い方は絵の具の種類によって使い方がいろいろあるので制約はない。
- 版画と絵は、版で表わすか線や色で表わすかの違いで同じジャンルのものである。
- 「修学旅行」の版画も絵で表わしても良いと思うが、絵の具は乾くと色が変化するので、パレットでイメージしたものと違うことがあるので難しい。
- 感覚的感動が即深い思いが固まったとは言えず、何故楽しかったなど知覚的感動まで高め分析的にもものを見ることが大切である。
- 題材というのは土俵であって、主題は自分をどう表現するか、自分のあり方はどうするかというものであって、それをせめるのが課題である。課題の中で、版画で表現するか、色・形などの絵で表現するか考える。単位時間の中で教師は子供に「本時の課題」をおさえさせ、授業の中で子供と同じレベルに立って、共に語り合って指導する事が大切である。

## 分科会 1 — (4)

## 小学校 (つくりたいものをつくる・立体に表す)

司 会 者	旭川市立末広北小学校	石 道 恵智子
	道教育大学附属釧路小学校	内 山 博 之
助 言 者	名寄市立名寄東小学校校長	波多野 恭 輔
	旭川市立新富小学校教頭	重 山 恵
提 言 者	旭川市立旭川第三小学校	菅 原 敏 光
運営・記録者	旭川市立旭川第二小学校	赤 島 吉 昭

### 1. 分科会テーマ その子らしい思いや願いで、思いきり表現する指導のあり方



### 2. 提言要旨

- 自然、地域の生活に根ざした素材だけでなく、現代化学工業がつくり出した化学製品、たとえばアクリル板、塩化ビニール板、発泡スチロール、アルミ針金なども素材として、積極的にその特性を取り入れる研究を行っている。
- 子供自身が素材を発見し、生かしていく方向で進め、児童の意欲を高めている。
- 新しい学力観・指導観に立った授業として、児童の発達段階に即し個々の願いや思いを援助していくという、児童の意欲を重視した授業研究を行ってきた。
- 身近な素材経験を広げたり、素材の特性を生かすことにより、造形的関心が深まり、個々の思いがより豊かになって表現意欲の向上につながってきている。
- 更に今後は、新しい学力観に立った題材の掘り起こしや素材経験を広げさせるための時間の保障や援助のあり方、学年の系統性の研究を深めていきたい。

### 3. 公開授業 1 題材名 ころころ どきどき楽しいしかけ (4年)

授業者 佐藤 修司 (旭川市立緑新小学校)

- 授業者より
- 共同制作の中で、一人一人の思いを大切にしながら、各自のアイデアを認め合いながら一人ではできない大きな仕事を協力してやり遂げる喜びを味わわせたいと考えた。
- コンパネをそのままの大ききで使用し、5～6人のグループで共同作業を行ったが、普段なかなか参加できない子供にもどこかで参加意識が生まれるよう指導を行ってきた。
- 一人一人の思いをすべて満たすことはむずかしいグループ制作ではあるが、その中でも、一人一人がこだわりを持って自分たちの考えを何とかして実現しようと工夫する生き生きとした姿が見られた。

**公開授業2** 題材名 大空に飛び立とう（6年）  
授業者 垣内 寛子（旭川市立永山西小学校）

- 授業者より
- 材料を児童が自分自身で集めるところから始め、その中から身近にありながらあまり扱っていないアクリル板、エンビ板に着目させ、発泡スチロールやアルミ針金などもその特性を生かし、授業を行った。
- 本題材では自分の夢を「鳥」に託し大空へはばたく姿を表現させたいと考えた。
- 実際、鳥の剥製に触れ、力強さ、羽の厚み等を参考にしながら肉づけを行った。
- 鳥のビデオも活用し、児童に観せることにより、大空を飛ぶ鳥のイメージをふくらませた。
- 作成過程で、どうしても平行に保とうとする意識が強いため、飛び立とうとしたり、旋回している、降下しようとしているといった鳥もいることを教え、一人一人自分の思いを個性豊かに表現できるよう配慮し、つくる喜びを味わわせる指導を行ってきた。

#### 4. 研究討議の内容

- 普段、市販の教材を使用しているが、個性を伸ばさせる上からも子供たちに素材から選ばせていく大切さを感じた。
- 直接なかなか手を出さない児童に対して、その児童の発想・活動をどう認めていくか、評価の発想を変えていく必要があるのではないか。
- 共同製作を進める際の指導の手立てとしては、グループでテーマを決め、そのテーマに基づいてしかけや仕組みを考えたが、そうするとどうしても受け入れられない児童もいた。
- ゲームで打ち出す仕組みを、どの時点で考えさせたか。
- 発射装置は、個々の時点ではそう考えてはいなかった。たぶんゴムでという位だ。
- 自然物だけではなく、市販、工業製品を生かして積極的に素材にしていくといった提言がありました。そのことに関してお考えはありますか？
- 発想豊かに、個性を伸ばしてということに重点を置いているが、基礎基本をおさえていかなければ、指導の系列が乱れていくのではないだろうか。
- 技術的に不十分な子には、個別に授業中や放課後を使って指導してきた。
- 題材設定の中で、クギ打ちやクギ抜きが必要な場面をつくり、個別にその場その場で指導してきた。

#### 5. 討議のまとめ

- 基礎基本をどこで指導していくのか。
- 子供たちが、その都度気づいていく、その中でよい発想がついていく。
- 大切なおさえとして（3つの視点）
  - ① 技術・技法を身につける。
  - ② 教師によって子供の造形への思い、発想がつくられていく。
  - ③ 表現の手順・仕方が、図画・工作の基本的内容であるというとならえ方が大切。
- 教師は、ワクの中で子供を見てきた。又、ともすると子供自身以外でとらえて見てきたことを反省する必要がある。  
上記の3つの視点から個性、創造性を伸ばし育てていくことが大切ではないだろうか。

## 分科会 1 — (5)

## 中学校 (絵画)

司 会 者	旭川市立緑が丘中学校	青 木 新 治
	余市市立東中学校	田 丸 公 記
助 言 者	旭川市立東陽中学校教頭	中 西 清 治
	旭川市立共栄小学校教頭	小 杉 正 典
提 言 者	旭川市立明星中学校	川 合 薫
記 録 者	旭川市立神居中学校	鳥 本 淳 子

## 1. 分科会テーマ

- 一人一人が表現の主題を持ち、生き生きと個を表現する絵画指導のあり方

## 2. 提言要旨

- 絵画の表現活動を通して対象の美しさを発見し、自分のイメージを大切にしながら表現の喜びを得る態度を育てたい。
- 中学生の発達段階では、表現の技術的な基礎基本も必要だが、子供の内面をゆり動かす対象との出会いや、発想・構想・再確認といったテクニックや制作中における適切な配慮や助言が重要である。
- 内面を重視した教材を設定するためには総合的な学習や選択幅のあるものを考える必要がある。
- 今までは、観察による表現が重視されてきたので、技術面で遅れた子供たちの内面的な感動が見失われてきている。
- 子どもが持っている個性的な素質と才能が損なわれそうな時、イメージそのものを題材とした取り組みが、子どもの秘められた個性の開発に適したものであり、その取り組みこそ芸術活動の本質だと考える。
- 個性は、造形活動の発想の段階や、色や形の表現、明暗や材質感、画面構成などの制作過程に表われてくる。それを、どう私たちがとり出すことができるかである。従って題材の設定に当たっては、子どもの欲求や興味感動を中心とし、表現に必要な材料・用具を吟味しモダンテクニックなどの具体的な表現方法の工夫をしてきた。
- 構想画においては、特に発達段階に見合った表現の計画を立て作品づくりに見通しを持って進めることが生き生きと個を表現することにつながると考える。
- 時間削減の問題もあるが、構想画は造形活動の幅を広げ独自性を引き出すための良い手段である。
- 授業後の絵画作品は、目的を持ち、効果的に展示し生活の中に生かされるようになれば美術作品が身近なものになると考える。

## 3. 公開授業

題材名 「わたしの不思議な風景」 第2学年

指導者 森 清行 (旭川市立忠和中学校)

- 授業者より
- 生徒はこの題材に興味を持ち、一生懸命取り組んできた。
- イメージトレーニングとして
  - ① 発想の方法としてコラージュやフォトモンタージュを利用し、発想を変えさせてみた。
  - ② 技法面では、生徒の欲求に従い授業を進める中でアイデアを生かし発想の転換をはか

- りながら必要な事を指導してきた。自分としては、面白い取り組みになったと思う。
- この題材では生徒の欲求にどれだけ対応できるかということがあり、事前の対応を綿密にたてておくことが必要と思う。
  - 作品をまとめるために人物を入れて発想のポイントとしたクラスもある。生徒は生き生きとしていたし、イメージが固まってくると熱心に取り組むので、指導者が勉強になった。
  - 効果的な展示の仕方について検討中である。各クラスで方向を変えてみたい。

#### 4. 研究討議の内容

- イメージづくりの方法について
  - ギャグでないことを理解させる。• 幻想の世界のビデオを鑑賞させる。• 作品の種類を用意して見せる。• モダンテクニックを色々用意し経験させる。• 資料を用意する。(新聞・雑誌) • 外でのスケッチをする。• 自画像や手のスケッチをする。
- 自分のイメージで作ったという手ごたえを感じさせることが大切。
  - 単なる資料の組み合わせになってしまわないように。• 自画像や手のスケッチなど絵の中に中心になるものを入れて軸をつくる。• 自分の形を工夫してみる。(紙の形など)
  - 資料にあまりとらわれないで思い切った発想を。
- 評価について
  - 自己評価カード(生徒と先生の評価が欲しい。)は、検討中だがカードを利用しながら毎時間の意欲やテーマがはっきりしていけば良いと思う。
- 指導案について
  - 今回の指導案の形式は試案である。新しい指導に合わせ、授業の転換をはかりたいので、指導に生かされる評価にするために観点をはっきりさせ、尺度や意識を変えてみた。
  - 今回の指導案は見方を変えるということで参考になった。

#### 5. 討議のまとめ(助言者から)

- 思いをあたため心はずませる題材として今日の授業は有効なものであった。
- 授業の中で良い部分を学ぶこと。\* 教師の準備・後片づけを見ることにより、指導者の発想や感心する手だてを知ることができる。(講習会等の参加の仕方)
- 資料の使い方は指導者の考え方で。\* 自分の資料をたくわえてあげることが大切である。
- 評価はこれから実践例がたくさん出て決まっていくであろう。
- 授業者と学習者への感謝
- 授業に対する感動は
  - \* 周到な計画 \* 子供たちの意欲的に学ぶ姿 \* 子供と教師の人間的な信頼関係
- 新しい授業の展開に向けて
  - \* 教材研究のあり方
    - ・ 学ばせ方にまで到る。
    - ・ ひとりひとりの学ぶめあて・内容方法をつかませて自己評価させる。
  - \* 子供の生活に根ざすと共に基礎基本の定着を目指す。
    - ・ 教師も共学者であり、権威者でありたい。
  - \* 資料等の与え方
    - ・ 発表段階を適切におさえ教師の力量から現在の力を発揮する。



## 分科会 1 — (6)

## 中学校 (デザイン・工芸)

司 会 者	旭川市立六合中学校 留萌市立港南中学校	小 松 吉 隆 阿 地 信美智
助 言 者	旭川市立緑が丘小学校教頭 富良野市立山部中学校長	五十嵐 一 之 山 理 利 春
提 言 者	旭川市立広陵中学校	小笠原 信 志
記 録 者	旭川市立光陽中学校	成 田 慎 司

### 1. 分科会テーマ

- 一人一人が表現の主題を持ち、生き生きと個を表現するデザイン・工芸指導のあり方

### 2. 提言要旨

指導要領の改訂に伴い、新しい学力観、選択要素等が大きなウエイトを占めるようになってきている。旭川でも1年半ほど前より3つの領域で以上のことを念頭においた試行錯誤が行なわれており、デザイン・工芸領域については、特にそういう面について工夫すべき余地が多い分野であると考えられる。研究の経過での基本のおさえとして、『①一人一人が目的、見通しをはっきり持ち学習に臨める習慣づけを図る ②生徒の思いや発想が生かせるような学習内容(形態)を工夫する』指導する側として『①ゴールは一つと考えずに臨む ②生徒側の視点に立って一緒に考える ③全体指導の場をできるだけ少なく』以上のような点に留意した授業研究が積み重ねられてきている。

### 3. 公開授業 題材名 「手作りオリジナル 壁掛けを作ろう(木象嵌画)」 2年 指導者 井山 和博

#### ○指導者より

- ・はじめての題材で、いくつかの問題が生じた。計画通りに授業が進まず、また、指導者自身の技術的な勉強の余地があったが、子供達の熱心さに支えられた感がある。
- ・発想を拓げるための選択の要素、指導上の重視点
  - ① 制作方法
    - a. 指導案に基いたオーソドックスなタイプ
    - b. 技術的に劣る
  - ② 材料の選択
    - ・下絵に合うように選ぶ
    - ・(象嵌の技法からはずれるが) 自然材料で装飾する～授業以外で自分で集めながら発想をひろげる(オリジナルの額をつける趣向で)
  - ③ 自分の課題を発見する
    - ・はりつける・木目利用など
- <反省として> 象嵌の技法を優先するか、発想を重視するかの迷いがあり、まとまりに欠けた授業となった。発想に対してある程度の制約が必要かもしれない。

### 4. 研究討議の内容

#### 討議の柱

- ① 表現の喜びを味わうデザイン・工芸指導の在り方
- ② 子どもの多様な発想を引き出し、自らの課題で取り組む題材の開発
- ③ 表現意欲を高め、表現の喜びを味わわせる評価の改善

- 「選択」の意味合いを考え、導入の授業も考えられたが、子供達の熱心さやつまづきなど生の姿を見せるということで今回の授業の形となった。また、新しい教材研究としても行なわれた。これらを含め、全体を通した質問・意見の受け付け
- 技法より発想を重視すべき、この点に関しての指導者のおさえはなにか。
  - 。飾るのが前提・オリジナル・5種類の材料以上3点の規制にとどめた。
- 以前、どのような地域素材の利用があったか。
  - 。木工で選択要素をもった授業があった。
    - 地域素材も大切だが、子供達に伝統文化を体験させることも大切であった。
- 展示されている作品（選択された食器）の評価はどのように行ったか。
  - 。工夫、出来映え、熱心さを見れば、どれを見ても同じという意識をもって行った。
- 材料のムダを防ぐため、互いに融通し合うとよいのではないか。
  - 。余るくらいで余裕を持って発想するため、また家でのこりの材料でできるということが多く渡した。
- 作業の進行の差をどううめるのか。
  - 。早い子は、反省と自主性を求め、もう1度チャレンジさせたい。遅い子は今のところいないが、これは子供の意欲と事前に簡単な方法（パズルタイプ）も紹介したため。
- 指導案の研究仮説、展開の形式の主眼点はなにか。工夫された内容に感心している。
  - 。生徒の立場に立った授業の流れをつくる形で小中独自の方針に基いてつくられた。生徒の個性を生かすという目的をもった。
- 5種類の材料はいつ紹介したのか。
  - 。アイディアスケッチの前に提示し、考えさせた。自然材料は下絵の段階で並行して行った。

## 5. 討議のまとめ（助言者から）

- 技法が主か、発想が主か、については授業の流れの最後の鑑賞で具体的な視点が定められるのではないか。欲をいえば象嵌では、技法の美しさに視点をおくべきである。その点で、重ね合わせて切るなどの技法や木目の美しさの利用に気づかせるため、評価の観点を具体的に示すなどの手だてが必要である。この手だてが、発展につながると思われる。
- 工芸指導の観点では、基礎と個性伸長は切りはなせない要素であり、特に技術的基本が伝達されなければならぬ。そのために計画的指導、作業が必要である。また個性伸長の面では様々な体験を選択できる幅を持たせる。いいかえれば思考的部分が重要となる。これらを通して、美しいものを正しく伝えていくことまでに到達させたい。子供達には「何をどのように表現するか」という意識を強く持たせることが大切ではないか。美術は結果オーライではない。「うまくできれば」ではなく、評価の中にある「関心・態度」を重視すべきである。今回の授業では、新しい素材を取り上げたことによって工芸に対する関心、興味が増す良いきっかけとなるのではないか。
- 象嵌の技法には様々なものがある。今回は技術的には少々不満があるが、この経験を通し、象嵌の歴史、技法が伝わり、関心が高まるとよいと思う。

分科会 1 — (7) — 中学校 (彫刻)

司 会 者	旭川市立永山中学校	原	完
	教育大学附属函館中学校	土 谷	敬
助 言 者	札幌市立石山中学校校長	奥 野 郁 男	
	朝日町立朝日中学校教頭	宮 川 昭 雄	
提 言 者	旭川市立光陽中学校	品 田	潤
	旭川市立神楽中学校	畠 山	勝
運営・記録者	東川町立東川中学校	澤 田 克 之	

### 1. 分科会テーマ

- 一人一人が表現の主題を持ち、生き生きと個を表現する彫刻指導のあり方。
- 必修教科における学習内容や方法の選択幅をどう広げるか。



### 2. 提言要旨

- 個に応じて選択の幅を持たし、それを実践させる。
- 個の把握は一人の教師では無理である。従って個の思考傾向、興味関心、表現力を普段の授業の中でタイプ分けをし、把握しておく。
- これまでの指導では、技能偏重の傾向が強く生徒を作品づくりに追い込みがちであった。新しい学力観に立つならばさらに一人一人の情意面を大切にする、多様性を持った授業づくりをしなければならない。そこで表現主題・技法・素材・用具等の選択の幅を個に応じて指導可能な範囲で広げていく手立てが必要である。
- 個の把握・学習過程における表現方法の多様化・個のつまづきに対応する具体的手立てを研究の視点として実践、研究をすすめているところである。

### 3. 公開授業

題材名 「愉快的仲間」 (2年)

授業者 畠山 勝 (旭川市立神楽中学校)

#### ◎授業者より

- 個人個人に興味がある材料、題材を選択させた。
- 選択の幅をもたすために何種類かの材料や手法を提示した。
- 結果的にユニークで多様な作品ができあがり、ねらいに達したのではないか。

#### 4. 研究討議の内容

- 授業について～生徒が授業に一生懸命取り組んでいるという事を片付けの時の様子を見て強く感じた。  
技法のタイプ別に一斉指導をしている時、その様子をモニターでながしてみた方が良かったのでは。まわりの生徒への学習になる。

参考作品も効果的に提示されていた。

- 「主題とのかかわりについて」～  
発想をイメージ化する、これが授業の核心である。そのために、参考作品の提示、また子どもの傾向を見ていく必要がある。それに応じ、類型化していく。  
(教育大附属旭川中学校 坂野)  
1年生から選択をもとめる。そして2・3年生で発展させる事。そうすれば教師にとって見通しが立ちやすい。しかし評価の段階でどうするのか？  
(帯広第6中学校 影山)

#### 5. 討議のまとめ (助言者から)

- 生徒主体の授業、生徒が思い出に残る授業をすべきである。授業について、レリーフはむずかしい。しかし、一つの目標に向かって取り組んでいた。(宮川教頭)
- もっともっと若い先生が大会に参加し、研究してほしい。授業について、教師は、子供の何をねらってA～Eの参考作品を用意したのか。なぜ地山を1cmに設定したのか。子供に対し、きちんとと言える、説明できる資料が必要。(奥野校長)



坂 本 幸  
(旭川市立東五条小学校)

## 分科会 2 小学校（造形あそび）

司 会 者	苫小牧市立大成小学校	鴻 江 茂
	旭川市立永山小学校	玉 手 稔 唯
助 言 者	旭川市立台場小学校教頭	渡 辺 正 勝
	比布町立中央小学校教頭	北 村 昶
提 言 者	札幌市立中央小学校	阿 部 宏 行
	深川市立深川小学校	渡 辺 貞 之
運営・記録者	旭川市立愛宕東小学校	沢 口 容 子

1. 分科会テーマ その子らしい表現を試み、楽しむ造形あそび

### 2. 討議の柱

- ・「材料」や「場所」に進んでかかわり、発言したり、工夫したりする喜びを味わう指導の在り方
- ・子どもの多様な発想を引き出し、心はずませ取り組む題材の開発
- ・表現意欲を高め、表現の喜びを味わわせる評価の改善

### 3. 提言要旨

#### 提言 1 提言者（阿部 宏行）

——子どもの造形活動のよさをみとる評価のあり方——

- ・昭和52年ごろから、テレビのアニメ番組の内容、時間帯、子供数の減少等により子供達が大きく変化しているが、教育課程もこれから大きく変わってくると思われる。
- ・子供には、画用紙を手にするですぐに描きはじめ発想がどんどん発展していく「ひらめき型」と、自分の考えを計画的にこつこつと実現していく「つみあげ型」がいる。前者は、発想は豊かで作業は早い但し作品は雑で完成しないこともあり、後者は発想段階では現実的で既習の経験を基にした構想であるが、製作は計画的で着実なので完成作品として評価される。しかし、作品にだけ重点をおいた評価から離れ、子どもの造形活動に目を向けた評価をすることによりひとりひとりの取り組みのよさを見つけ出せる。
- ・子どもの意欲のあらわれを規定し、具体的なあらわれをみとりの表に表していくと、子どもの特性を客観的にとらえられ、発想力と構想力のどちらにも偏らない評価をすることができる。しかし教師は常に子供を見る目を鍛えておかなければならない。

#### 提言 2 提言者（渡辺 貞行）

——「うさぎを飼うため」の実践から——

- ・図工科の中にのみある造形あそびというものについて種々の疑問点や混乱はあるが次のように考える。
  - (1) 物質にふれてその性質、特性を知るためのあそび。
  - (2) 自然物を、あるいは人工物を使ってあそべるために。
  - (3) あそびに使うためのものをつくる行為。あるいはつくったものであそぶ楽しさを知るために。

このことから、生活の中へ、造形活動をもどしてやる。つまり生活づくりのために造形活動が生きてゆくこと。そのためには、図工の時だけの限った時間や空間だけでなく、生活の中で起きたあるチャンスを生かすのもよいのではないだろうか。

- 子供達とうさぎを飼うことになったが、子供達は外だけでなく教室の中でも飼いたいと、自分達の手で外用、教室用の2つの小屋を作ることになった。材料は何が必要でどこにあるか、必要な道具は何でその使い方はどうなのか、できあがった小屋はどんな形がいいのか等をおじいちゃんやお父さんに聞いてきて、廃材を利用した外用と、牛乳パックで教室用の小屋を作りあげた。そこにはいろいろな工夫がしてあり、子供達同志教え合い相談しあって完成させたのである。
- 現代の子は活性がないと言われているが「やりたい」という気持ちがあれば生き生きと活動するのである。我々が日常子どもに「活性」をうながすチャンスを与えていないのかもしれない。

#### 4. 研究討議の内容

##### (1) 造形あそびについて

- 造形的な創造活動で、心と体が自然に溶け込んでいけるものであり、そこでは造形的実験精神が養われる。
- 造形あそびは全て図工科の中に入るもので、あそびの中に発展があり、造形はあそびの中にある。この造形あそびによって自然のよさを発見したり、道具の使い方を知ったり体を通しての経験ができる。
- 造形あそびでは場所、場面によって子供同志がお互いに相談し合い教え合い、協力し合うことで仲間づくりをすることができる。

##### (2) 造形あそびと生活科の違いとつながりについて

- きちんとわけられない重複している活動はあるが、造形あそびでは造形的要素(色・形)がもりこまれている。名刺づくりを例にとると生活科では他の人に自分を覚えてもらうという人と人とのつながりを大事にする要素が強く、図工科では色、形等の物とのつながりを大事にする要素が強い。

##### (3) 造形あそびのメリットは

- 材料に対する体感を得られる。
- 造形の生活化へつながる。
- 廃材も有効な材料になる。
- 5・6年の高学年でも図工が好きになる。
- 遊びに直結していて楽しい。

##### (4) 本日の授業について

- 子供同志のつながり、活動の広がりをもっとあってもよく、それには教師が個々の子どもを大事に、指導でなく支援するという方法で。
- ストーリー性をもたせる上では場所も大事な要素で、教室だけでなく廊下、外へも広げて行くと発想も大きくふくらんでいく。

#### 5. 討議のまとめ

- 子供の特性でもある色、形、人と人とのつながり等の中のアそび性を大切に、外部からの統制はできるだけなくする。
- 自分の発想を自由に生かせる場所を確保する。
- 子供の細かな所も見のがさず、一人一人の個性を大切に評価する。
- 意欲、関心、興味を大切にできるのが図工科である。

## 分科会 2 小学校（絵に表す）

司 会 者	旭川市立向陵小学校 江別市立江別第二小学校	市 野 恵美子 堂 下 由紀子
助 言 者	旭川市立雨紛小学校教頭 美深町立仁字布小・中学校長	築 山 尚 明 木 村 典 義
提 言 者	雄武町立豊丘小学校 室蘭市立高平小学校	添 田 好 美 佐 伯 進
運営・記録者	旭川市立東町小学校	川 村 由美子

1. 分科会テーマ その子らしい思いを持ち、広げ、表現する絵画指導のあり方

### 2. 討議の柱

- 一人一人の思いを確かなものにし、生き生きと表現する指導の在り方
- 子どもの多様な発想を引きだし、心はずませ取り組む題材の開発
- 表現意欲を高め、表現の喜びを味わわせる評価の改善

### 3. 提言要旨

#### 提言 1 提言者（添田 好美）

- 楽しかった事を話したり動作化したりして、互いにほめたり認め合ったりする学級作りをしている。
- 題材をみつけやすくする為に、子供の話を聞いてあげたり、日記に書いてあることを話題にしたりする。
- 導入の工夫として、運動会のビデオを使ったり、ひまわりの観察をして、楽しかったりしたことを体で表現して、楽しい雰囲気を作っている。
- 実際の指導では、本番より小さい画用紙にひまわりを観察させて描かせたり、用具の使い方を練習させたりしている。用具や材料も題材によって変化させている。
- 今後の課題としては、自分が工夫したこと等を発表できるよう、はげましたりほめたりしているけれど、困っている児童に、共に考えて勇気づけるより、余計な口出しをしているようで、対処の仕方を学んでいきたい。

#### 提言 2 提言者（佐伯 進）

- 新指導要領では絵画領域が $\frac{1}{2}$ しかなく絵を描く時間がせばめられたことをふまえている。
- 個人差に応じ、個を生かす手立てをつくりあげる為に、基礎・基本を学年の発達に応じて身に付けていき、その上で豊かな発想と、確かな表現力を育てていきたい。
- 平成 2・3 年度は色彩感覚を育てる為の色彩指導を行い、水彩絵の具の技法、色の濃淡、混色等を指導した。また、興味・関心を高め、意欲的に取り組ませる授業づくりについては、体験的な学習の場の設定、「気づき」を重視した授業を行って実践交流し合った。
- 春、秋の作品展で市内の小中学校の代表作を一堂に集め、特選・佳作を選定していく中でテーマにかかわる語り合いが成果をあげている。
- 4年生で飼育した「かいこ」を題材にとり、それに対する愛情表現と色彩指導をもち込んで授業をした。4分の1時間を色彩指導にとり、単色と水による濃淡、青と黄で作る緑の変化等、色彩の基礎・基本の定着化を図った。
- 今後、基礎・基本の定着化を図る学年系統表の独自作成等、課題を絞り込んでの取り組み

を具体化していくような共通理解の場を持ちたい。

#### 4. 研究討議の内容

- 基礎・基本を教えた後、個性が育つというけれど、個性が先にあって、思考錯誤の中で自分なりの基礎を築き上げていくと思うのだが。
- 子供が発見したように助言するのが教師の立場だと思う。
- 技術的なものをおさえてから興味・関心をひきおこす場合もあるし、心情的なものから生まれていく基礎・基本もあると思うが美術教育の流れによって変化してきている。
- 「家」という題での授業で、家の意義について深く考え、作文を基にして指導していったのも基礎・基本だと思うが、家を描いても経済的差がつく場合もあるので「こんな家に住んでみたい。」という題にしても良いと思う。
- 絵を描く時、『誰に伝えるか』ということが明確になると児童の意欲が湧き、それを表わしている時つまづいたなら教師が援助の手を差しのべるのも基礎・基本となる。
- 最初にすべて指示をするのではなく、子供の思いを広げる為、その都度教えていくことも大切で、色遊び、刀遊び等、多様に経験させてから大きな題材に取り組むと良い。
- 低学年の時は他人と比較しないで自分なりに表現できて満足できていれば良い。
- いろいろな出来事をたくさん回転させている絵では、低学年の子供は、見た事を描くのではなく、知った事を描くので、たくさん描けることは質が高い。
- 「最後まで頑張ったね。」と生活の内容をほめるのではなく、「おもちゃたくさん知っているのだね。」とか絵そのものの部分をほめたらよい。
- 教師の迷っている姿がよく、思い込んで自信たっぷりに教えると、教師の枠を越えられない場合がある。
- 牛が同じような模様をつけている、左を向いている等、教師の許可を得なければ描けない状態を作ってはだめで、よく見る訓練をして、その子なりに描かず事が大切。材料も変化させて、子供の描きたい思いを出せるように工夫しなければならない。
- まとめの段階で、子供同志で相互評価し、互いに認め合う事は、他教科や、学級経営にもつながっていくので大事だと思う。
- 作品展で賞を決めたりするのにはいろいろな意見もあるが、この作品を見て欲しいという程度のシールをはる展覧会もあるし、たまにいろいろな傾向の作品に賞を出すものもある。

#### 5. 討議のまとめ

- 3年生までは表出の段階で技術より自分の気持ちを自由に描くことが大切で、4年から中3までは表現の段階で、絵の説明や構成、形等技術も必要になってくる。
- 願いを出せない子に本来持っている発想の能力を引き出す為には、教室に絵をはる等、物的環境と、先生と子供と楽しかった事等、共に語り合っただけで描きたくなくなる必然性をほり起こす人的環境をきちんと整えなくてはならない。
- 図工も教科であって、目標に対して教師なりの評価をしなければならない。児童への評価は、次の段階のエネルギー、自信につながるように、その子に適した言葉をかけたらよい。
- 作品自体を評価すること、作品への向い方を評価することと二面性を持つのが良い。
- 子供を育てる評価と、教師自身を育てる評価、すなわち見れる目が育つようにしなければならない。
- 指導の目標にどれだけのどりつけたか、どこに問題点があったか、常に反省をし、制作カード等にかかれた子供のねがいにそって、子供の心に残るほめ方を工夫することが大切。



## 分科会 2 小学校（つくりたいものをつくる・立体に表す）

司 会 者	旭川市立末広北小学校	石 道 恵智子
	道教育大学附属釧路小学校	内 山 博 之
助 言 者	名寄市立名寄東小学校校長	波多野 恭 輔
	旭川市立新富小学校教頭	重 山 恵
提 言 者	旭川市立春光小学校	太 田 哲 嗣
	函館市立旭岡小学校	中 村 吉 秀
運営・記録者	旭川市立旭川第二小学校	赤 島 吉 昭

1. 分科会テーマ その子らしい思いや願いで、思いきり表現する指導のあり方

### 2. 討議の柱

- ・材料に積極的に働きかけ、自由に発想を楽しむ指導の在り方
- ・子どもの多様な発想を引きだし、心はずませ取り組む題材の開発
- ・表現意欲を高め、表現の喜びを味わわせる評価の改善

### 3. 提言要旨

#### 提言 1 提言者（太田 哲嗣）

- ・「つくりたいものをつくる」では、子どもたちが実際材料にふれたり、用具を直接使ったりしながら、自分自身の思いを自分自身の手を使ってつくることの喜びを味わわせ、感性や創造性を育てている。
- ・めざす子ども像として「自分の思いを自分らしく楽しみながら表現できる子」と設定し、つくりたいという意欲が最後まで持続するよう配慮している。
- ・意欲を高める方策として、出来上がった作品の使い方、飾り方、扱い方を具体的に知らせ意識させるようにした。それにより、用具や材料集めの段階から、子どもたちの製作に対する思いが込められてきた。
- ・子どもたちは、すごいこだわりを持って、自分の考えを生かそうと細かい所まで取り組むようになってきている。

#### 提言 2 提言者（中村 吉秀）

- ・本旭川大会の主題から、子どもの感性を大切にし、表現する喜びを味わわせる造形活動のあり方を研究してきた。
- ・子どもの感性に訴える為に、アルミ缶を素材として選び、宇宙動物を題材に制作活動を行った。
- ・材料・題材から巡らした「想い」を学習カードにそって各自練り上げ制作につなげさせた。
- ・意欲を高める意味からも、自己評価として学習カードにも一言感想を書かせ、それに対し教師も、助言・励まし・認めの一語を必ず添えた。それは評価にもつながる資料にもなる。
- ・展示の仕方も、単に並べるだけではなく、“宇宙都市”を協力して制作するという目標を明確化することにより、宇宙動物へのイメージや愛情が更に深まり、より大きな意欲にもつながっていた。

### 4. 研究討議の内容

- ・「つくりたいものをつくる」と「立体に表す」との領域の分け方についての考え

- どれだけ子どもの要求にこたえることができるか、広げていくことができるか、その為にも領域にこだわらない方がよい。(助言者 波多野)
- 素材として市販されているものも目的に応じて造形に使えるという経験をさせるのに適している。アクリル板などは身近素材ではないという意見もあるが、新たな使い方を発見させながらその経験を広げていくことにより、造形意欲が高まり、表現力も広がっていくのではないか。
- 心象表現か適応表現かということを考えていくと区分ができてくる。又、評価でいくとおさえがちがってくるので問題はないのではないか。(白糠町 中村)
- 自分の思いを持っていると、その思いを表現しようとする意欲が出、技術も高まっていく。
- 評価の改善に視点をあてた実践例又、評価のあり方について意見をはどうか。
- 意志・意欲があれば、作品の質よりも個性・発想、思いを大切にすなかで、その子の今の実態に応じた支援によって、その子の発想を共感的に受け入れて指導していくとよいのではないか。
- 一生懸命意欲を持って取り組むがよく出来ない。その時もっとよくしたいという欲求を持つ。満足度から言うと、意欲を重視するが、技術・技能の面もないがしろにはできないのではないか。
- 技法を指導することは大事だが、何を作ったらよいかを決めるのは子どもである。教師が教えられる面は技法しかない。個性・意欲を大切にすあまり、技法までも子どもにまかせ指導しないのはあやまりではないか。
- 私は10年来子どもの作品の写真を撮ってきた。視点をせばめて評価していくとよく見える。技術的なものと全体的なものの面と分けて評価していく。そのためにも、たくさんの作品をしっかりと見ていく必要があり、教師自身が見る目を育てていかなければならない。

## 5. 討議のまとめ

### • 授業について

佐藤先生の授業は、絵に夢がありすばらしい。子ども達が自分の思いを寄せながら作っており、題材もよい。

垣内先生の授業は、大空に飛び立とうという題材を、一人一人が生き生きととらえており素材の特性も十分生かし表現していた。

### • 討議について

#### (1) 子ども一人一人のよさや可能性を伸ばす為の教師の姿勢

新しい学力観に立った一人一人の可能性や良さ、思い、願いを生かす上で、基本的に一人一人の子の特性を知ることにより、よさを認め待つ姿勢が大切である。

#### (2) 共同制作の中で一人一人の思いをどう生かすか

共同制作の中で一人一人の持ち味が出ることにより思いが生き、その意義がある。

#### (3) 市販の教材について

市販のものに、どう付加価値をつけていくかが大切である。

#### (4) 基礎・基本について

技法の指導と励ましが大切である。子どもが困っていたら図鑑で調べよう～援助が大切

#### (5) 「つくりたいものをつくる」と「立体に表す」の領域の立て分け

ねらいにより子どものどこを育てていくかが大切である。

#### (6) 評価について

その子の持ち味を見ながら累積していく必要がある。

分科会 2 中学校（総合）

司会者	旭川市立六合中学校 旭川市立神楽中学校	大口 優 関 秋 宏
助言者	美瑛町立美進小学校校長 教育大学旭川校助教授 上川教育局指導主事	萩原 常 良 武田 薫 川上 典
提言者	教育大学旭川校附属中学校 釧路市立美原中学校 帯広市立帯広第六中学校 富良野町立金山中学校	坂野 潤 治 森 富 輝 影山 美 香 中村 靖
運営・記録者	旭川市立春光台中学校	吉永 一 江

1. 分科会テーマ 新しい学力観に対応する中学校美術教育のあり方

2. 討議の柱

- 選択履修幅の拡大（必修・選択）
- 生活の中に生きる美術科
- 教材の開発、工夫改善
- 評価について

3. 提言要旨

提言 1 提言者（坂野 潤治）

- ・ 選択教科としての美術における選択幅の適性化についての説明
- ・ 選択幅の拡大とは課題を限定する場合は方法を多様化し、課題を広げる場合は方法を限定。
- ・ 視覚伝達デザインは、選択教科の特質を生かした指導が十分できる。個性を生かす実践例。
- ・ 課題①選択動機の把握②学習プロセスと素材開発③適性選択できない生徒への指導援助。

提言 2 提言者（森 富輝）

- ・ 同じ物を同じ時間で製作しない指導。
- ・ 今までは、課題選択学習を取り入れ、同一の題材への生徒一人一人の多様な取り組みという視点で研究を進めてきた。これからは、課題設定を生徒一人一人に委ねる指導に視点。
- ・ 課題①基礎・基本の履修②各種資料を揃える③十分な道具④製作空間⑤題材を生徒が設定

提言 3 提言者（影山 美香）

- ・ 作品発表・交流の場を通じて見る目、感じとる心を育てる指導のあり方について
- ・ ①校内外の生活の中に生きる美術科の指導のあり方②自己開発をめざした作品づくり③相互理解をはかる作品鑑賞のあり方・校内校外展での取り組み発表。
- ・ 発表の場が、「見る目、感じとる心」を養うきっかけの一つになればと考え設定した。

提言 4 提言者（中村 靖）

- ・ 一人ひとりのおもいを広げるデザイン学習の工夫（CGを生かした系統的なデザイン学習）
- ・ 多くの情報を短時間に的確に伝え、判断し、取捨選択する能力がますます必要とされる未来社会を生きる子どもに美術科として何を指導して行けばよいか。
- ・ デザインの基礎技術、技法を示した後、教育課程にCGを用いた授業を組み込む実践説明
- ・ 少ない美術の時間の中で、パソコンを有効な道具と考え、デザイン分野で効果的な活用を。

#### 4. 研究討議の内容

評価について

- ・教師と先生の評価観点を同じにする。生徒の自己評価と教師の評価の違いをうめていく。違いをもとに、次の指導に生きる手立てを見出すための評価を大事にする。

マンダラと、CDについて

- ・マンダラは動きのおもしろさの発見等の手がかりを作るため使った。
- ・コンピューターのハードリスクをソフトにしている。動きのソフトは「LOGO」

選択幅の拡大設定について

- ・教師が指導の見通しを持って、創る喜びを保障していく。興味関心を見つけただけでは力はつかない。選択幅は可能な限り広げてあげたいが限界がある。限界をどうみきわめるか。生徒の実態・教師の指導力をふまえ考えている。

題材の複数の指導のあり方

- ・全体を見通して声をかけ、生徒も自由に見て回っているので一斉授業と変わらない。

生徒の表現活動は他に理解を求めていくばかりではないのでは？

- ・授業のわくだけでなく、他に主張していくことの大事さ。学校行事や地域に広め、浸透していくことによっても美術教育がなりたつ。
- ・教師自身も多様性、いろいろな考え方をもち、価値感に対応でき、豊かにならなければならない。生徒の豊かな感性を高めるためには環境が大切である。
- ・彫刻の授業は個を生かす授業であった。その手段として①粘土を3種類②地山が5種類③多様な作品④台紙の色、形もさまざま⑤生活の中で生かす。すばらしかった。

#### 5. 研究討議のまとめ

◎授業数が2時間から1時間になった時の取り組みを思いだしていた。今回は時数のことがでなかった。

- ・基礎基本の問題…6年生で刃物の使い方を指導されていないとか、モダンテクニック等経験していないことがある。
- ・学校全体の意識の改革がまだできていないのではないか。選択の認識がまだ浅い。教科の特質を生かして、各学校で活躍してほしい。

◎各先生方の提言内容は新しい観点的評価に合っている。

- ・生活の中に生きる美術教育、「一番大切なものは」「私って何なの」等の交流を深め、他者から見つけていく。互いに認めあう、助けあう等の、目に見えないものに評価がでてきた。
- ・CGはさけて通れない時代、基本的技能を発見できる実践である。
- ・発想や構想の部分と関係があるような気がする。

総合的学習…復合的学習→自分からやっていた、自分に応じた題材を用意、「個に応じたスピード」いままではスピードを制御してきた。

- ・関心・意欲にポイントがある。「僕は、私はこれをするんだ」→保障しなければならない。美術が好きなんだという人間を育てる。選択で教師が広げすぎると質が気になる。それを研究してきている。

◎生徒の主体性の確立、感性の高まり、論理性の向上、自我の確立が中学生で求められているものである。思考場面を多くしていくのが個性につながる。

◎思考して活動していく場面を多くしていくのが個性につながる。何を個性としてとらえるのか。それを明らかにし、それを生かした方法はどうあるべきかが今後の課題である。

## 分科会 1

## 高等学校

司 会 者	旭川大学高等学校	佐 藤 範 夫
助 言 者	旭川竜谷高等学校	平 田 和 也
運営・記録者	北海道旭川西高等学校	川 口 幸 和

### 1. 分科会テーマ 中高の美術連携を考える

#### 2. 研究討議の内容

##### (1) 中学校の公開授業を観ての感想

- 全体を見てどの授業もプロセスを大切にしている、改めてプロセスの大切さを実感した。
- 中学を離れて11年、新鮮な気持ちがあった。細やかな過程にそって動いている。生徒の動かし方、教材の研究が充分なされている。
- 12年間中学校に勤務していたが、新鮮で楽しく取り組んでいるなど感じた。校舎のよごれを気にしながら粘土で首を作らせた事を思い出した（モデリック等ない時代）。題材教材をみて時代の流れを感じる。新指導要領になると時間制限があり彫刻はやりづらくなるのではないかな。
- 絵画では、マーブリングやスパッタリングの表現技法を使い内面的な発想を生かす面白い授業をしていた。
- 苦勞して授業展開していた。今の子は「自由にせよ」と言うとうちやうちいいかとまどってしまう。何か条件をつけないとやれない子が出て来た。
- どの授業も綿密な指導計画を立て、展開にも細やかな配慮がゆき届いていた。題材にも工夫がみられた。

##### (2) 高校での各分野（領域）の実施について

- 設備の関係で粘土、七宝はしていない。私立は1クラスの人数が多いのも悩み。
- デッサン、油絵、デザインといったスタイルはここ数年変わりなし。工芸では木工、七宝、金属をやっている。
- 高校では美術は選択教科だから、設備や時間数の問題もあり全部の領域をやらなくてもいいのではないかな。新教育課程では授業時数が減ってくるので、やり易い事、やり易い方法を見つけて行かなくてはならない。
- どの領域も全てとはいかない。今後は時数減もあるので使う教材を変えていかなくてはならない。生徒に満足感を与えるものにしぼって深め（精選）、実社会に生かされるものを。あまりにも手軽な教材に頼ってはいけない。

#### 3. 討議のまとめ

教育は子ども達がどんな経験をし、どんな学習をしてきたかを踏えてから取り組まなければ実のあるものとはならない。子どものおかれている今の環境は良い状態とは言えない。自由な発想、個性的表現が低下し、画一化、パターン化傾向が高校で見られる今こそ、幼小・中・高が連携して造形教育に力を入れ、子どもを育てていかなくてはならない。

## 分科会 2

## 高等学校

司 会 者	北海道旭川北高等学校	木 村 勝 男
助 言 者	旭川竜谷高等学校	平 田 和 也
提 言 者	北海道旭川東高等学校	斉 藤 健 昭
	北海道旭川南高等学校	山 口 幸 彦
運営・記録者	北海道旭川西高等学校	川 口 幸 和

### 1. 分科会テーマ 新指導要領と高校美術教育～今日の高校における造形教育を考える～

### 2. 共同提言要旨

新指導要領の実施にともなって開かれた教育課程研究会に参加、その後数回学習会を開き、今回の研究大会の話のきっかけになる柱を提供。各校の実状等を出し合い今後の高校美術教育はどうあるべきかを研究する。

### 3. 研究討議の柱及び内容

#### (1) 新教育課程における特徴と具体的な取り組み方

- 単位数の確保が難しくなっている。学校事情で単位数を減らされる学校が出てきている。美術Ⅱの目標は美術Ⅰでの幅広い学習経験を踏まえてさらに充実した表現活動による美的創造力を育てる事をねらいにしているにもかかわらず現実的には進学校ほど美術Ⅱの単位数が1単位に減らされる傾向にある。美術Ⅰ、美術Ⅱ合わせて3単位になると使える教材が限定される。例えば油彩画ができなくなりアクリル画が増えるのでは、又彫刻の授業が全く設定できなくなる等問題あり。単位数に応じた教材の開発・研究と年間指導計画の工夫が必要。
- 総則にうたわれている各項目、例えば①調和のとれた人間の育成、個性を生かす教育の充実 ②個性豊かな文化の創造……平和な国際社会に貢献できる……などに美術科の持つ特性は大きく変わってきている。
- 美術Ⅰの指導にあたって、今回特に中学校美術との関連について考慮しなければならないのは、中学2年次、3年次での選択美術の履習による学習体験の相違が予測される。生徒の実態についての十分な把握が必要であり、多様な学習経験に応じた指導にも配慮が必要となる。
- 美術Ⅰは義務教育での美術のまとめの性格が加えられたことになり、高校美術の基本的な内容を履習させると共に、絵画・彫刻・デザインの表現活動についてはいずれにも偏ることなく幅広い経験をさせる。そのためには新しい素材・教材の開発、研究が必要となる。
- これからの美術教育は、単に絵を描いたり、ものを作らせたりするだけでなく、それらの活動を通して人間の調和的な発達を促すという重要な機能を持つことが必要になってくると捉えられる。今後は生活全般の中での美的体験学習の指導を進めなければならない。

#### (2) 今日の美術教育の実践で思うこと

- ひとつの作品の制作に充分時間をかけて完成の成就感を与える事を考えているか。完成度を生徒自身が制作していく中で実感することが必要である。
- 発展的な表現、個性的な色彩、フォルムの工夫が少ないが、指導上の困難点・問題点と

して考える必要があるのではないか。

- 幅広く一方に偏らない教材を考えすぎではないか。中学では幅広く、浅く。高校では芸術教科（音・美・書・工）から1つを選択するのであるから、油絵なら油絵、彫刻なら彫刻を深く追求させるのもよいのでは。
- 授業で行わない教科を希望する生徒に対する対応をどうするか。
- 特殊な形態の捉え方をする生徒に対しての評価と指導をどうするか。
- コンピュータ機器の導入や資料の扱い方について
- 特に現代の美術において、ヴィジュアルデザインにおいて表現の多様化が言われて久しいが、生徒の発想は画一化・パターン化の傾向にある。それを打破するためには大胆に既成概念を取り払うべく、どう取り組むか。
- ひとつの教材に時間をかけない傾向に流れすぎではないか。
- フォルムを追求させる教材が少ないのではないか。

上記の様に日々の実践を通して思うことが提示されたが限られた時間の中で充分討議できなかった。しかし、どの項をとっても大きな問題を含んでいるし、造形に目を向け、真剣に取り組めば取り組むほど避けて通れない点であろう。何かの機会に話し合えればいいなということまで話を打ちきったので項目だけ羅列した。

### (3) 最近の美術選択者（小・中学校の図画・美術教育を経て）から感じとれる問題点

- 鉛筆の使い方（陰影）、線の重ね方等
- 固有色の使い方等に画一されたものを感じる。（人物画に特徴的に見られる）
- 個性的な色彩・フォルムが少ない。
- 想像画・デザインなどで大胆な発想・構図があまり見られない。
- 作品に対する姿勢が自分の納得するまでには至っていない。
- なんとか完成度を高めようとする努力が足りない。
- 想像力を求める教材（想像画・グラフィックデザインなど）で生徒の独創的な図案やアイデアが少なくなっている。安易に色々なメディアから利用・借用する傾向にある。
- 広告デザインが氾濫している中、無批判な受け身の姿勢に慣れ過ぎてはいないか。

## 4. 高校美術授業の実態（旭川東・旭川南の場合）

- 美術選択者数は両校とも第1希望は405名中170名を越えるため人数調整をしている（音楽や書道より人気がある）。選択の理由は中学から油絵をやっているので高校でも続けたかった。高校で油絵をやりたいかった、美術が好きだといった積極的な理由が多い。授業内容は1、2年ともデッサン、油彩画、デザインと両校ともほぼ同じ、南校は2年時に多色刷り木版画をやっている。
- 東高美術部は毎年NHKギャラリーで校外展を実施。南校は生徒会行事として美術・書道選択者の全作品と各文化部（美術・書道・写真）の作品、合わせて700点を越える作品を文化会館に展示する校外展を行っている（今年度で20回）。

## 5. 討議のまとめ

新指導要領は、うたい文句はいいが実質面では後退している。特に進学校での単位数減は切実な問題。生徒の想像性の低下、個性的な色彩・フォルムの減少、発想の画一化・パターン化等を危惧している現場としては尚更である。2-1=1とはならない。

# 公開授業指導案 ▶





## 公開授業

校種	内容・分野	学年	題材名	授業者
幼稚園	表現	5歳児	動物を作って遊ぼう	平 広子 (旭川くりの木幼稚園)
		5歳児	動物を作って遊ぼう	長尾 寛子 (旭川ふたば幼稚園)
小学校	造形あそび	1年	うつつた・うつつた	坂本 幸 (旭川市立東五条小学校)
		4年	何ができるかな?	宮本 佳世 (旭川市立東五条小学校)
	絵にあらわす	5年	私 の 家	武田 千恵美 (旭川市立神居小学校)
		6年	見て聞いて驚いたあの修学旅行	横川 香代子 (旭川市立永山小学校)
	つくりたいものをつくる	4年	ころころドキドキ 楽しいしかけ	佐藤 修司 (旭川市立緑新小学校)
	立体にあらわす	6年	大空にとびたとう	垣内 寛子 (旭川市立永山西小学校)
中学校	絵画	2年	私の不思議な世界	森 清行 (旭川市立忠和中学校)
	デザイン・工作	2年	手作りオリジナル 壁掛けを作ろう	井山 和博 (旭川市立永山南中学校)
	彫刻	2年	ゆかいな仲間 (~をする友達)	畠山 勝 (旭川市立神楽中学校)

幼稚園・5歳児・動物を作って遊ぶ

**主題名** 動物についてのイメージを豊かにし、全員が楽しめる動物づくりをして遊ぶ。

**題材名** 「動物を作って遊ぼう」

**指導者**：平 広 子 くりの木幼稚園きりん組28名

**指導者**：長 尾 寛 子 ふたば幼稚園きりん組36名

1. 本日のねらい

一人一人が動物のイメージを豊かにし、伸び伸びと制作して、みんなで楽しく遊ぶ。

2. 保育の内容

動物を制作し、友達と楽しく遊ぼう。

3. 活動の計画

年長になり、グループ活動が始まったことで、交友関係が深まり、協力する姿が見られるようになってきた。

この時期に、他園の園児と一緒に交わり、意見を出し合いながら、身近な素材を生かして遊びを広げることが出来るように、両園の保育者が共通理解のために、数度の協議会を開催したりして、また、園児同志の交流会を設定したりして、環境構成をしてきたのである。

4. これからの計画

遊びの中で、子ども同志がお互いのアイデアを生かし、身近な素材を取り入れたりして、工夫をはかりながら遊びを発展させていきたい。

5. 展 開

時 刻	環境の構成・教師の働きかけ	予想される幼児の活動
8:00	・挨拶を交わしながら視察する。	・登園
8:20	・会場に到着する。 会場の雰囲気慣れさせる。	・会場内を歩き回る。
8:40	・動物のイメージをふくらませるように雰囲気を つくりだす。	・落ち着きのない子もい る。
9:00	・制作に必要な材料・場所等を説明する。	・興味を持って話を聞き、 制作に熱中する。
9:20	・動物のイメージをふくらませ、伸び伸びと制作 できるように言葉掛けを工夫する。	・制作した動物で遊ぶ。
10:10	・他園との交わりを確認する。	・新しい友達を発見する。
10:20	・子供達に感想を尋ねる。	・意見発表をする。
11:00		・帰園、降園

学習の主題 身近にある材料を使って、型押し遊びをして楽しもう

題材名 「うつった うつった」

— 指導者：坂本 幸 — 児童：旭川市立東五条小学校 1年2組 —

## 1. 学習活動の意図と可能性

入学して4カ月が経過した。男女ともに元気いっぱいの子ども達である。

4月当初、学級通信が「きかんしゃ」に決まったことや誕生列車として機関車「なかよし号」がワークスペースに掲示されたこともあって、子ども達の中から自分達の「きかんしゃ」をつくってみたいという声が出た。そこで、子ども達が結びつきを深めたりお母さん達が知り合ったりするために、7月の参観日を活用して親子で6台の機関車をつくることにした。

本校では、子ども達が意欲を持って主体的に学習するために、ストーリー性のある学習展開を重視しており、多くの成果を見ているところである。そこで、本題材「うつった うつった」においては、まず夢のあるストーリー性を重視した導入を工夫することにした。子ども達は、「きかんしゃ」づくりから始まって次の学習を大いに楽しみにしているようである。「きかんしゃにのってみたい。」「せんろをはしらせてみたい。」との声で、せんろづくりが始まった。

描材は水彩絵の具で、ローラーを使って線路を描いていった。子ども達は好きな色を選び、思い思いにローラーで線路を描いていった。楽しくて何本もの線を引く子やまっすぐな線路では満足できないユニークな子まで様々であった。「でも、まわりがさみしいな。」「線路のまわりをにぎやかで楽しくしたいな。」という子ども達。このような一人一人の思いや願いを大切に、友だちと造形表現することのおもしろさや楽しさを味わわせたい。

## 2. 指導の目標と内容

### (1) 目標

- ア. 児童一人一人が自分の思いで主体的に活動し、楽しもうとする。
- イ. できたものを見たり、遊んだりすることに関心を持ち、その楽しさを味わおうとする。

### (2) 内容

- ア. ローラーや身の回りのものを使い、型押しをして楽しい線路をつくる。
- イ. みんなで汽車ごっこをして楽しく遊ぶ。

## 3. 指導の計画 (2時間)

- (1) 教師の話から、イメージをふくらませて自分の思いで線路をつくる。(1時間)
- (2) 線路のまわりに型押しをして、にぎやかで楽しい線路をつくり、汽車ごっこをして楽しむ。(1時間)

## 4. 準備

- (1) 教師 バット、水彩絵の具、版画紙(全紙大)、型押しをするもの(発泡スチロール、スポンジ、さつま芋、人参など)、ダンボールの機関車、新聞紙

(2) 児童 型押しをするもの(2~3個)、おしぼり

## 5. 評 価

ア. 楽しく主体的に造形活動ができたか。

イ. 工夫しながら楽しく汽車ごっこをして遊ぶことができたか。

## 6. 本時の目標

線路のまわりに型押しをして、にぎやかで楽しい線路をつくり、汽車ごっこをして楽しむ。

## 7. 本時の展開

児 童 の 活 動 の 流 れ	○ 支 援 と 評 価	☆よさを生かす手立て
① 前時の学習を想起し、思ったことわかったことを発表する。	○さあ、みんな見てごらん。 前の時間つくった線路だね。 ○みんなのを並べたら、こんなになったよ。 ○どうやってつくったんだっただかな。ローラーに色をつけて、紙にうつしたんだっただね。	☆楽しく学習できるように意欲づけをする。
② 本時の学習活動を知る。 ・写し方のルールを知る。 ・気をつけることを知る。	○今日は、この線路のまわりが、もっとにぎやかになるようにいろんな形にうつして、つけたすんだっただね。 ○形は、自分の好きなところへ写していいですよ。 ○色はたっぷりつけて、ゆっくり押しすんだっただね。 先生が持ってきたものも使っていていいですよ。	○☆イメージがふくらむように支援する。 ☆ルールは、始めに知らせておく。 ☆型押しの方を支援する。 ☆豊かな体験ができるように支援する。
③ 自分の思いで線路のまわりに型押しをする。	○だんだんにぎやかな線路になってきましたね。	☆型押し遊びの楽しさを十分味わわせる。
④ 線路をつなぐ。	○みんなで線路をつないで高いところから見てください。	☆視点を変えて鑑賞させる。
⑤ 台上から作品を鑑賞する。 ・感想を発表する。	○つなげたね。さあ、台の上に上がって。どんなになったかな。  ○にぎやかな楽しい線路になりましたね。	
⑥ 汽車ごっこをして遊ぶ。	○この線路を使って、汽車ごっこをして遊びましょうか。	☆「きかんしゃ」の活用
⑦ 楽しかったことやがんばったことなどを発表する。	○今日の学習は楽しかったかな。楽しかったことやがんばったことを発表してください。	☆簡単な後片づけをさせる。

小学校・4年・造形遊び

**学習の主題** 思いを生かして飾りつけをしたり、くふうして楽しい「ガンバの森」を作る。

**題材名** 『何ができるかな』—— ガンバの森 ——

**指導者**：宮 本 佳 世 —— **児童**：旭川市立東五条小学校 4年2組 ——

### 1. 学習活動の意図と可能性

この学習活動では、日ごろゴミとして捨てられる牛乳パックを使って、自分なりの思いを生かし、工夫して、ぶら下げたりゆれたりする柱状のものを作り、見たり、動かしたり遊んだりといった、作業や活動そのものを楽しませたい。

また、大量にあり、子供たちの身近にある扱いやすい素材ということから、牛乳パックを中心とした材料選びをした。材料については、牛乳パックや割竹などという共通のもの他に、自分の着想を大事にしながらいメージにあった（または材料からイメージをふくらませて）材料集めをさせた。

したがって、そのような材料集めから、発想が広がったりふくらんだりして、はじめの柱から離れたものに発展するようなことも考えられる。

「柱状のもの」とは、一定の条件下におくことで、ただ無制限に自由を与えるより、逆に児童の想像力をのびのびと発揮させるための一つのきっかけとなることを期待して設定した。

題材が漠然としたものであるため、出来上がるものも一人一人違ってることが予想される。教師の援助もそれに伴い、個別なものを中心となるであろう。

一人一人の個性を大事にしながらか、学級全体を見ても楽しめるような活動にしたい。

### 2. 指導の目標と内容

#### (1) 目 標

- ア. 身近な材料の形や色、材質を生かして表現活動を楽しむ。
- イ. 自分で材料を選択したり、収集したりする。
- ウ. 形が崩れないように、丈夫な接合を工夫する。

#### (2) 内 容

- ア. 牛乳パックで丈夫な柱を作る。
- イ. 自分の思いを生かして、材料を集め、柱に工夫や飾り付けをする。
- ウ. 「ガンバの森」で楽しく遊ぶ。

### 3. 指導の計画（1～4時） 別紙

- (1) 柱作り…………… 1
- (2) 材料集めのためのスケッチ…………… 1
- (3) 飾り付け・工夫・遊び…………… 2（本時½）

### 4. 準 備

#### (1) 児童が準備するもの

カッター、ハサミ、ホッチキス、テープ、接着剤、自分で必要な材料

(2) 教師が準備するもの

牛乳パック、割り竹、竹ひご、ボール、画用紙、カップ等

5. 評価の観点

- (1) 牛乳パックをはじめ、いろいろな材料の特徴を生かした使い方や道具の扱いができたか。
- (2) 自分の思いを具体的に図に表すことができたか。
- (3) 工夫したり、アイデアを生かすことができたか。
- (4) 楽しく活動したり遊ぶことができたか。

3. 指導の計画

時	指 導 目 標	活 動 内 容	材 料 ・ 技 法
1	牛乳パックをつなげて、丈夫な柱を作る。 ・丈夫な柱を作る。 ・テープの扱いに慣れる。	「牛乳パックで柱を作ってみよう。」 1. 布テープと両面テープを使って、牛乳パックの丈夫なつなげ方を知る。 2. テープの使い方、ハサミ、カッターの使い方について知る。	(ワークスペース) ・牛乳パック ・カッター、ハサミ ・ホッチキス ・布テープ、両面テープ
2	柱をもとにして、自分の思いを生かした工夫をスケッチする。	「牛乳パックの柱からどんなものができるかな。」 1. 思いを絵にすることで具体化する。 2. 必要な材料をメモする。(材料集め) 3. どうやって取りつけるか考える。(材料、道具の使い方)	・上質紙 ・鉛筆
3 本 時	思いを生かして飾りつけをしたり、工夫して楽しい「ガンバの森」を作る。 ・接着したり、切ったり、穴を開けたりして、さまざまな工夫をして活動する。 ・さらに工夫したらいいところを考える。	「集めたいろいろな材料を使って、柱に工夫や飾りつけをしよう。」 1. 自分の思い通りに柱を飾りつけ、変化させる。 2. 協力して、柱を飾ったり、つけたりする。 3. 試してみる。(動かしてみる。) 4. 他の人のアイデアや工夫してあるところに気づく。 5. さらに工夫したり飾りつけるところを考える。	・割り竹 ・竹ひご ・カップ類 ・ボール等 ・個人で持ってきた材料
4	ガンバの森で楽しく遊ぶ。	「持ってきた材料をつけたしてみよう。」 ・持ってきた材料をつけたしてみる。「ガンバの森で遊んでみよう。」 ・感想を発表し合う。	

なにができるかな？

《本時の目標》

思いを生かして飾りつけをしたり、くふうして楽しい「ガンバの森」を作る。

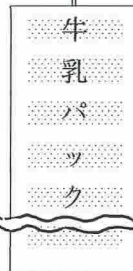
児童の活動の流れ	○ 支援と評価	☆よさを生かす手立て
① 前時の学習を想起し、思ったこと・わかったことを発表する。	○友だちの柱を見てみよう。 どんな工夫や飾りつけをしているかな。 ～が面白いね。 ～を工夫しているね。 ～がきれいだね。	☆楽しく学習できるように意欲づけをする。  ☆OHPを使う。
② 本時の活動内容を知る。	○今日は柱がもっと面白く、楽しいものになるように、自分で考えて持ってきた材料をつけたしてみましよう。	
③ 気をつけることを知る。	○つなぎ方について注意することをいっておきます。 ・しっかりつなぐ ・きれいにつなぐ	
④ 作業に取りかかる。	○友だちと作る人は相談をしてください。一人で作る人は、作業をはじめてください。	○☆うまくつなげないところは支援する。
⑤ 自分の思いで柱に飾りつけをする。	○だんだん楽しい森になってきたね。	
⑥ 他の柱を見てまわったり、遊んだりする。	○「ガンバの森」をまわってみよう。	
⑦ 感想を発表してもらおう。 ・工夫したところ ・面白かったところ ・頑張ったこと	○楽しい「ガンバの森」になったね。 今日の勉強で、工夫したところや面白かったこと、頑張ったことを発表してください。	

# 「なにができるかな？」

4年2組 名前

牛乳パックの柱にどんなくふうをしますか？  
他の人が考えつかないようなおもしろいアイデアをかきこんで  
みましょう。

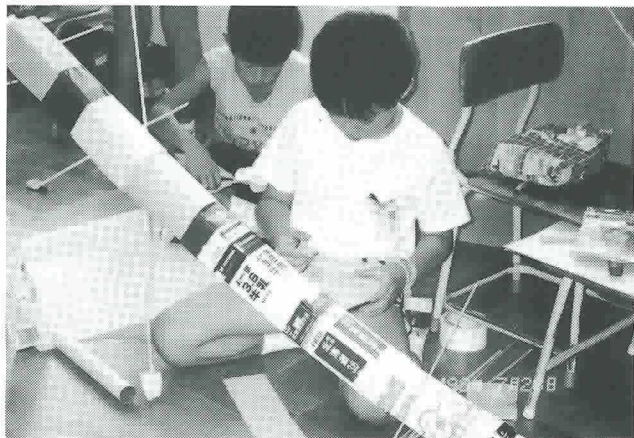
針金



材料（使う材料を書き出しましょう。）

道具

- 
- 
- 
- 





学習の主題 自分だけの色と形で表そう

題材名 『私の家』

指導者：武田 千恵美 児童：旭川市立神居小学校 5年3組

## 1. 学習活動の意図と可能性

よく言われるように近頃の子ども達は、情報化社会により生活環境が変化し、一方通行的な受け身的ものの見方や、デジタル的かつ表層的なものの考え方をする傾向が強くなりつつある。そのためか自己中心的で、他者との協調や積極性などに欠け、主体的な生き生きとした表現活動が見えにくくなっている。身体を使って創造的に諸々の他者と遊んだりする場所や時間が無くなるだけでなく、どこかに忘れてきているのではなからうか。このように、生き生きした力や他者への配慮、粘り強さなどに欠けるなどという私たちの感想は、子ども達が自ら求めて身につけたものではもちろんない。時代や社会、家庭、周りの大人の社会に順応し作り上げられてきたものである。造形表現においても、模倣が多く、ゆったりとかまえた、ふくよかなところでの人間が創造する表現の深みを扱わなくなっている。ゆえに、そういった人間の持つ深さを考え、表現することにより、内発的にじっくりと感動でき、且つ、発見的に持続し、成し遂げることもできる子ども達に向けての造形表現を育てていくことがまず大切と考える。

さて、学習指導要領において、「絵に表す」内容は「見たこと」「感じたこと」「想像したこと」となっている。本題材はこれらを複合的に扱い、それらを一つのものとして構想し表現することを中心に、児童の個性・感性の深みからの自己発見をねらったものである。つまり「構想表現」によるトータルな深まりからの、表現の発想から自己生成することを中心に据えている。また、日常のテレビやマンガ、ファミコンなどの映像から発想することの多い子ども達は、限られた概念化された映像にとらわれている場合が多く、自分だけの色と形の創造的な世界を、意欲を持つことや粘り強く考えることにより創り出せることを発見できずにいる。そこで、もう一つのより本来的日常の発見として、自分自身による主題の決定と構想表現を身につけることを題材に中心を絞ることにした。つまり、このプロセスで自己表現することの意欲を芽生えさせ、主題の決定から完成まで粘り強く構想し続けることを持続させ、誰にもまねのできない自分の世界を創り出していく成就感、達成感のある喜びを体験させたいと思う。

指導にあたっては、作文を通して私の家の何を表現しようかという表現の主題を発見し、見つけることによって、それが造形することにつながり、自分の表現を産み出していくことが分かるといったことを特に留意したい。また、子どもにとっては最初抵抗が多いが、深まりに向けての表現として完成まで持続させつつ、合間に友達と比較し合い、みんな誰にもまねのできない自分だけの造形表現の世界があること、それが私が生きていくうえでの大切な自己表現の一つであることを自覚させたい。表現する喜びはこういった私の思索の後に出てくるものであることが分かってほしいと考える。

こういった造形表現の深まりの指導は、イメージを自分なりに工夫して創造し効果的に表せた時、発見的に発生することを大切にす。また創る喜びの具現化を知ることによって、

映像社会の中で、自己を見失うことなく主体的にそれを利用し、たくましく生きる人間に育てることを考える。さらに、構想表現の中でも特に心的内容からの表現をポイントにするのは、自己を見つめ、その内面を表現してみることににより、人間としての生き方を考えるきっかけになることをモットーとする。以上のことに留意し、指導している。

## 2. 指導の目標と内容

### (1) 目標

- ア. 言語による表現内容を、シンボル化してまとめていく過程を通して、構想力を養う。
- イ. 自分にとっての「家」について考えることにより、「家」に対する大切な思いを認識し、そういった内容が表現を生むことを自覚する。

### (2) 内容

- ア. 自分の家に対する感性を自覚し、自分の家をシンボル化して描く。まず家というものの構成要素「屋根」「壁」「戸」「窓」「ベッド」等の意義づけを例として見、次に自分の家にあるもの、机、楽器、ポスターなどを加えて自分なりにそれらを解釈し、一つの画面にシンボル化して構想する。

## 3. 指導の計画（13時間）

- (1) 家の意義について話を聞く。…………… 1時間
- (2) 家の中で自分にとって大切なものについて作文する。…………… 1時間
- (3) 作文をもとに下絵を構想する。…………… 2時間
- (4) 下絵を描く。…………… 2時間
- (5) 色をつける。…………… 6時間（本時％）
- (6) 自分や友達の作品を鑑賞し、「活動」や「作品」について感想文を書く。…………… 1時間

## 4. 準備

- (1) 教師 プリント、作文用紙、画用紙、コンテパステル、和紙
- (2) 児童 水彩絵の具、ポスターカラー、絵の具用具、カラーペン、クレヨン、パス、色鉛筆、墨汁、色紙、包装紙、新聞紙、古切手、毛糸、布、のり、はさみなど

## 5. 評価の観点

- (1) 真剣に考えて、創意工夫して表現しようとしているか。（表現態度）
- (2) しっかりと主題を把握して、その内容をシンボル化できているか。（内容把握）
- (3) 色や形を工夫して、言いたいことを造形的に構成し表しているか。（造形表現力）
- (4) 自他の表現方法を認め合っているか。（鑑賞態度）

## 6. 本時の目標

- ◎ イメージに合った色の手法を引き出して、集中して表現することの楽しさを味わう。
- ◎ 相互鑑賞や発表を通して、自分とは違う考え方、表現方法に気づくとともに、自己の表現を知る。

7. 本時の展開

児童の活動の流れ	○ 支援 と 評価	☆よさを生かす手だて
① 表そうとするものが、「自分の家」にとってどうして大切なのか、またその表現のために色の手法でどんな工夫をしたのか発表する。	○子ども一人一人がテーマを持って描けるように、児童の意見を大切に、認めていく。	☆自分とは違う、友達の考え方や表現の仕方を、個性として理解させる。
② 表したい自分の思いが表れるように、自分なりに試みながら彩色する。	○行き詰まった場合には、表現内容をもとに、あくまで思いを引き出すことを中心に、個別指導する。場合によっては形の変化もあり得る。	☆色の手法について試みながら見つけるようにさせる。
○☆表現材料も、水彩絵の具、ポスターカラー、クレヨン、パス、カラーペン、コンテパステル、墨汁、色々な紙などあることを、個に応じて紹介する。		
③ お互いに作品を見せ合いながら、話し合う。	○一人一人の描いた絵をみんなで見合い、良いところを励まし合うことにより、満足感と次時への意欲を起こさせる。	☆まず、自由に作品を見せ合って自分の思いを発表し、お互いの作品の良さを学び合いやすいようにグループで相互鑑賞する。
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分のがんばったこと、発見したこと、気がついたことを発表する。</li> <li>• 友達の作品で工夫しているところを見つけ、発表し合う。</li> </ul>		☆次に、友達の作品の良さや工夫に気づき、認め合えるように、全体の中で発表し合う。

<私の家>

自分にとって「家」とは何ですか？  
自分の考えをくわしく書きなさい。


1993.

5年 組

月 日

( ) の 鑑 賞 カ ー ド	
5 年 組	氏 名
自 分 の 作 品	作品への思い
	一番表現したかったこと等
友 達 の 作 品	工夫や努力したこと
	今後の見通し
死 生 よ り	さん
	さん

〈私の家〉

自分にとって「家」とは何ですか？  
自分の考えをくわしく書きなさい。

私にとって家とはとても大切なものです。他人には見えない家族だけのしみの場所だと思います。家ではやすらげる自分をさらけだせる所だと思います。それに家にいると心がほっとします。自分の家が一番おちつく場所です。家は家族をあたたく守ってくれていると思います。いこの場所だとも思います。

1993.

5年う組 松家由子

〈私の家〉

自分が、自分の家にとってとても大切なものと決めたものについて、自分の考えをくわしく書きなさい。

「台所」

私は台所が一番家の中で大切だと思う。台所は朝昼夜毎日利用する場所だ。台所のいろいろな道具が私はえらいと思う。たとえば、れいぞうこだと食べ物をくさらないように守ってくれる。そのいろいろな道具たちとみせつに生きている。私は台所が大好きだ。台所は食べ物を作る場所だ。食べ物を食べないと人間は死んじゃう。台所は家ぞくみんなの命をあたたく守ってくれる。台所は人間を生きさせる力を持っている。生きるみなもの場所だとも思う。台所は世界中で一番大切だと思う。一回だけだしがら台所と話をしたい。そして、「ありがとう」と声をかけたい。

おわり

1993.

5年う組 松家由子

〈私の家〉

自分にとって「家」とは何ですか？  
自分の考えをくわしく書きなさい。

ぼくにとって家とは大切な物である。家にはいろいろなつぎ物がある。それがぼくたちを守ってくれる。家がなくなると住む場所もなくなり、やすらぐ場所もなくなる。自分も家を大切にしなければならぬ。

1993.

5年う組 奥村有左

〈私の家〉

自分が、自分の家にとってとても大切なものと決めたものについて、自分の考えをくわしく書きなさい。

「まくら」

まくらは、ふしんのかきものかまくらは、ゆめをめぐめさせてくれる。まくらがなければねむれない。もしねたとしてもゆめはういこいまくらを使うとうちかうりも大きいゆめを見れる。でもうちかうみたにいくらゆめじゃもないもつと大きくあがるゆめ。世界で一人だけの自分のゆめ。ゆめを見ると旧のさいご旧の初めのゆめ。まくらをつかうと大きい。いっぱいのゆめ。

1993.

5年う組 奥村有左

学習の主題 自分なりの表現で木版画をつくろう

題材名 「見て 聞いて 驚いた あの修学旅行」

指導者：横 川 香代子 ————— 児童：旭川市立永山小学校 6年2組 —————

### 1. 学習活動の意図と可能性

6年生になった子ども達は、日常生活の中で様々な体験や経験をしてきている。中でも最も深く心に残り、忘れられない思い出となるのはやはり何といっても、一泊二日の修学旅行ではないだろうか。ここでは、自分達の見、耳で聞き、実際の体験を通して得た修学旅行での感動を自分なりの表現の仕方でも版画に表すことを学習活動の中心とした。

高学年になるにつれ、対象を見たまに描いたり作ったり、より写実的、現実的な物の見方をするようになる。そして、子どもの目には、対象に忠実に描けるか描けないかでその作品の出来生えを左右してしまう傾向さえある。他方、対象を見つめる一人ひとりの子どもの思いや感情は、個々様々であり、その表現は、もっと自由であるはずである。結果としての作品ではなく、目で見、耳で聞いて、身体全体で体験した感動を自分の感情や感覚に結びつけて表現していくことが大切であり、そこに自分の本当の思いが深く表現されていくのだと思う。

修学旅行という大きな体験を通して、驚き、発見、喜び、美しさなどを感じとることができ、それを木版画で表現することは、自分達が経験した感動を絵で表し、版を彫り、そして刷るという一連の活動の中で再びよみがえらせることができるものと思う。ここではそういった活動の中で、観察力、構想力、計画性、用具の扱い方などを身につけ、白と黒を基調にした単純明快なリズム感を大切に、素朴な力強さ美しさを感じとりながら自分なりの表現の喜びを味わうことをねらいとしている。

さらに、今後の造形活動に於いても、体験を通して得た様々な思いを大切にしたい表現活動へと意欲的に取り組んでいくようになっていくと考える。

### 2. 指導の目標と内容

#### (1) 目 標

- ア. 体験したことをもとに、最も強く表現したい思いを絵に表す。
- イ. 黒と白の刷り上がりの効果を考えて、自分なりの表現の仕方でも版画をつくる。

#### (2) 内 容

- ア. 修学旅行を通しての、発見、驚き、感動を表現しようとする思いを持つ。
- イ. 思いを生かして構想を練り、絵に表す。
- ウ. 表現しようとする思いを彫刻刀などを使って版で表現する。
- エ. 表現したものに喜びを持つと共に、友達の作品の良さを発見する。

### 3. 指導の計画 (14～16)

- (1) VTRなどを見ながら修学旅行を振り返り、話し合ったり印象に残っていることを文章表現することにより、自分なりの表現への思いを持つようにする。……………(2)

- (2) 感動が表れるように自分なりの表現の仕方で絵に描く。…………… (4)
- (3) 絵をもとに、白、黒の効果を考えながら版をつくる。…………… (6)
- (4) ためし刷り、本刷りを行う。…………… (2) 本時½
- (5) 刷り上がった作品を鑑賞し、自分や友人の作品の表現の良さを認め合う。…………… (1)

#### 4. 準備

- (1) 教師  
修学旅行でのVTR、作文用紙、画用紙、版木（シナベニヤ）、版画紙、カーボン紙、版画ローラーセット一式、プレス機、新聞紙、セロテープ、ダーマトグラフ、乾燥棚
- (2) 児童  
彫刻刀など、エプロン、墨汁、筆、筆記用具、油性マジック、古タオル、新聞紙

#### 5. 評価の観点

- (1) 自分なりの表現の思いを持ち、意欲的に造形活動に取り組もうとしている。
- (2) 体験や感じたことをもとに、一番表したいことなど自分らしい表現の構想を練っている。
- (3) 彫刻刀などの使い方を理解し、効果的な彫り方を工夫し計画的に製作している。
- (4) 自分や友人の作品を見て、良さを感じとり、発表し合うことをしている。

#### 6. 本時の目標

- (1) 刷り上がりの状態を考えながら、刀などの使い方を工夫し彫り進める。
- (2) インクをよく練り、ためし刷りをして、全体の調子を見ながら修正彫りをしていく。

#### 7. 本時の展開

児童の活動の流れ	○ 支援と評価	☆よさを生かす手だて
① 彫り進んだ版木を見つめて、効果的な彫りを考え、さらに、ためし彫りをした児童の作品を見て修正彫りの仕方を知る。	○本人の感想や他の児童の意見を聞きながら、さらに彫っていくといい部分はどこなのか、気づきを大切にする。	☆全体の調子を見ながら、彫りの浅い部分やインクのつき方などに目を向けるようにする。
② 効果的に彫り進める。	○作業の進度には、ある程度、差があると思われる。一定の作業計画は立てるが個々のペースを大事にし、彫り進み具合を見て「もう少しだね」などと声をかけ励ます。	
③ 刷り上がった版から順にためし刷りの準備をする。		☆彫り上がった児童から順にためし刷りをする。
④ 自分の温めてきた思いがうまく表わされるように願いと期待をこめてためし刷りをする。	○「さあ、どんな出来具合かな」と大きな期待と刷り上がった喜びが持てるようにし、そのよいところを認める。	☆ローラーの使い方やプレス機の扱いなど前時の学習を思い出し、なるべく子ども同志で協力し合う

ようにする。

⑤ 自分のためし刷りの作品を見ながら、全体の調子を見つめ、修正彫りの必要な部分を考えて彫っていく。

○どう修正したらよいか考えがまとまらない児童にはどう表したのか話を聞きながら助言していく。

☆どこをどう修正するか考  
えるとき個々の「ここを  
もう少しこんなふう～」  
というつぶやきや考えに  
共感し、また相談にのる。

○効果的な修正彫りができているか。

⑥ ためし刷りの作品を並べて見ながら、自分の作品の表現したかったこと、自分の思い、修正彫りで表現したいことなどを発表する。また、友達の作品の良いところなどを認め合う。

○作品に対する自分の思いが発表できているか。

☆児童の思いが表現されて  
いるところを認め、それ  
ぞれのよさを賞賛する。

・次時で本刷りをし、いよいよ完成させる期待を持つ。

○友達の作品のよさに気づく。

○次時では、今日のためし刷り、修正彫りをもとに本刷りをし、いよいよ完成に近づけていく喜びと期待感が持てるように呼びかける。

・かたづける。

月 日 ( )

題材(見て 聞いて 驚いた ああ修学旅行)	6年 組 氏名( )	
この点について考えてみよう	どれくらいできたか くり返し・工夫したところ	
精 想 を 練 る	修学旅行の様子や感動をいろいろ思い出した。	1 2 3 4
	一番印象に残る場面を決めることができた。	1 2 3 4
	一番表したい思いを自分なりにかき方でよく考えてかけた	1 2 3 4
版 木 に か く	彫るところがよくわかるように下絵がかけた。	1 2 3 4
	彫りあとを予想し、感じができるように墨入れた。	1 2 3 4
版 木 を 彫 る	それぞれの刀の特徴がわかり、使い分けて使った。	1 2 3 4
	彫りあとを、いろいろ工夫して彫れた。	1 2 3 4
	白と黒のバランスがちょうどよく彫れた。	1 2 3 4
刷 る	むらなく、インクをつけることができた。	1 2 3 4
	ためし刷りをし、効果的な修正彫り、本刷りができた。	1 2 3 4
鑑 賞	(完成作品を見て)自分の思いをよく表すことができた。	1 2 3 4
	友人の作品の中でいろいろと参考にするものがあった。	1 2 3 4
感 想	先生から	

( ) の鑑賞カード		
6年 組	氏名	
自 分 の 作 品	○作品への思い 一番表現したか ったことなど	
	工夫や努力したこと	
友 達 の 作 品	今後の見通し	
	さん	
	さん	
先 生 の	さん	

## — 小学校・4年・つくりたいものをつくる —

学習の主題 その子らしい思いや願いで、思いきり表現する

題材名 「ころころ どきどき 楽しいしかけ」

指導者：佐藤修司 ————— 児童：旭川市立緑新小学校 4年1組 —————

### 1. 学習活動の意図と可能性

どの家庭にも木材の切れ端があり大工道具があった時代には、子ども達は、板材を見つけては鋸で形をつくり釘で飾りをつけゴム動力のスクリューをつけた船をつくって遊んだものである。本来、子ども達は、木を切ったり、削ったりすることが好きである。しかし、最近では生活に必要な物のほとんどが必要とする形で商品化され、個々に加工を施す必要がなくなった。家庭から木材の切れ端が見られなくなり、鋸などの大工道具までもが消えかけている。子ども達を取り巻く環境も大人社会同様、物質に恵まれ豊富な遊具による受身的な活動が多くなり、自らつくりだした物で遊ぶ感激を知らない子ども達が多くなっている。

そこで、このような子ども達に、材料にふれたり、用具を使ったりしながら自分の思いを自分なりの手法でつくりあげていく楽しさや、それを使ったり、飾ったりする喜びを味わわせたい。また、子ども達が喜んでつくったり遊んだりする中から、子どもらしい発想や工夫を見い出すことによって、人間本来の望ましい感覚を育てる創造活動を展開させることができると考える。

本題材では、木を中心として扱うが、自分達の思いを実現するために必要な様々な材料を身の回りから見つけさせ意欲化を図りたい。また、用具についても、ペンチやきりなど5学年で示されているものを使用することがあるが創造的な能力を高める観点から初歩的に扱っていきたい。

この学級の子ども達は、造形活動が好きである。普段からグループをつくってフィルムケースや紙筒等で夢中になって造形遊びを楽しんでいる。この子ども達に、木材を中心としたゲームづくりを提案し、材料に対して思いのままに想像を膨らませ、おおよその見通しを持ちながらつくる活動を楽しませたい。また、お互いを認め合うことができるようになってきたことを生かし、一人一人の思いを大切にしながら、それぞれのアイディアを認め合う中で、一人ではできないような大きな仕事を協力してやり遂げる喜びを味わわせたい。

指導にあたっては、子どもの思いを大切に、その意欲をそぐことの無いように、製作の中で鋸やきりなどが必要となる場面を設定し、その場その場で技法等を指導していきたい。また、製作途中での思い付きも認め、常にグループで相談しながら作業を進めさせ、さらに、自分の思いを形として十分に表現できない子や興味はあるが持続力の無い子についても、共同製作の良さを十分に生かし、協力してつくる活動を通して意欲が継続するよう留意したい。

### 2. 指導の目標と内容

#### (1) 目標

- ア. 仕組みや簡単な仕掛けを、思いのままに発想するとともに、つくり方などを自分なりに工夫し、見通しを持つ。
- イ. グループの計画の中における自分の発想に合わせて、材料や用具を選び、手と心を働



かせてつくる。

ウ. 目的に合わせ、遊びながらも、確かめ工夫し、製作することの楽しさを味わう。

## (2) 内 容

ア. 発想を出し合い、簡単な図に表して、グループでおおよその見通しを持つ。

イ. 必要な材料や用具を選び、自分なりのつくり方で工夫してつくる。

ウ. つくったものを確かめたり、できた喜びを味わいながら遊んだりする。

## 3. 指導の計画（8時間）

- (1) どんな仕組みが考えられるか話し合い、思いを広げる。……………（1時間）
- (2) 釘の位置・仕掛けの配置やデザインを簡単な図に表してみる。……………（1時間）
- (3) 仕掛けに必要な材料を探したり選んだりして、工夫しながら  
計画に合わせてつくる。……………（4時間）
- (4) つくったものを、確かめたり遊んだりしながら、仕掛けの  
手直しをして完成させる。……………（1時間 本時）
- (5) 完成したもので遊びながら鑑賞し合う。……………（1時間）

## 4. 準 備

- (1) 教 師    コンパネ   釘   木舞   接着剤（酢酸ビニルエマルジョン系）  
              耐水性ポスターカラー   刷毛   画用紙   マニラボール紙  
              ゴルフボール   木工用具
- (2) 児 童    木工用具   木材   菓子箱   発泡スチロール   ゴム   絵の具

## 5. 評価の観点

- (1) 自由に発想するとともに、自分なりに仕掛けやつくり方を工夫しているか。
- (2) 自分の思いに合わせて、材料や用具を選び、手と心を働かせてつくりようとしているか。
- (3) 自分の思いをグループの中で生かし、協力して作業を進めているか。
- (4) できた作品を認め合い、遊んだりしながら喜びを味わっているか。

## 6. 本時の目標

自分達の思いに合わせて楽しくゲームができるように、製作の途中で発想したことなども生かして手直しをし完成させる。

## 7. 本時の展開

児童の活動の流れ	○ 支援 と 評価	☆よさを生かす手だて
①前の時間までに考えてつくっておいた発射装置を取り付ける。	○大きなコリントゲームだから、ある程度の勢いがないと飛び出していけないので強い力が必要なことを伝える。	☆いよいよ完成だねという程度の話にとどめて、つくりたいという意欲を大切にする。

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p>② つくったものを確かめたり遊んだりしながら手直しをする部分を発見する。</p>  | <p>○ 仕掛けがうまく機能している、玉が仕掛けを通らない場合が多いので、釘の位置や、釘傾きに注意させる。</p>                     | <p>☆ 仕掛けの工夫を認め、その仕掛けが活かされるようグループごとに相談に応じる。</p> |
| <p>③ どこをどのように手直ししたらよいか、グループで話し合いながら製作する。</p> | <p>○ 一人一人が自分なりの造形感覚を出し合って協力して作業を進めているか。(評価)</p> <p>○ 必要と思われる材料や用具を準備しておく。</p> | <p>☆ 思い付きも認めてうまくいった時は子ども達の気持ちになって喜んであげる。</p>   |
| <p>④ 作品づくりで工夫したことを発表する。</p>                  | <p>○ お互いのグループのよさを認め合いながら完成の喜びを味わわせる。</p>                                      | <p>☆ 全部のグループが発表できるように時間を考える。</p>               |

## <資料>

### ① 各グループのテーマとおもな仕掛け

- |   |  |
|---|--|
| <p>Aグループ …… 「海の中」</p> <p>Bグループ …… 「ジャングル」</p> <p>Cグループ …… 「空」</p> <p>Dグループ …… 「洞窟」</p> <p>Eグループ …… 「大冒険」</p> <p>Fグループ …… 「宇宙」</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ちょうちんあんこうの豆球</li> <li>• 椰子の実の落下</li> <li>• 雲の開閉 熱気球の豆球</li> <li>• 飛び出すカード</li> <li>• メリーゴーラウンド ジャンプ台</li> <li>• ヘリコプター</li> </ul> |
|---|--|



学習の主題 素材の特性を生かし、夢が広がる立体表現

題材名 『大空に飛び立とう』

指導者：垣内寛子 ————— 児童：旭川市立永山西小学校 6年3組 —————

## 1. 学習活動の意図と可能性

5年生の題材「宇宙船作り」で未来のクラス会を月で開こうと夢をふくらませ、自分達で集めた材料で様々な宇宙船を作った。一人ひとりが身近にあるものを持ち寄り自分の思いを広げながら意欲的に取り組む姿が見られた。異質な素材の接着の仕方を工夫したり、自分の考えているイメージに合うように試行錯誤を繰り返しながら夢中になって制作していた。

そこで本題材では、自分の思いをさらにイメージ化してふくらませ自分の夢を『鳥』に託し大空へはばたく姿を表現させたい。この学習では、個人の発想・構想をより大切に、夢がどんどん広がるように「鳥の動き」に視点をあて、立体表現できるように援助したい。

素材は、子供達が経験を生かし積極的にみつけたものの中で、身近にありながらあまり扱っていない発泡スチロールやアクリル板、エンビ板などに着目させたい。エンビ板などは可塑性があり、簡単に曲げることもでき、心材としても素材としても適切なものと考え。

子供達の夢がびっしりつまっている『鳥』を表現していく中で、さらに思いを温めながらよりよいものに向かっていく活動が展開されるものと信じている。また、このような素材経験をすることにより、造型的な興味・関心が広がり、自分の思いをより豊かに表現し、作る喜びを味わえるものと考え。

## 2. 指導の目標と内容

### (1) 目標

- ア. 自分の夢を鳥の翼や姿勢に投影し、表し方の構想を練って立体表現する。
- イ. 素材の特性を生かし、量感豊かな立体に表す。
- ウ. 友達と協力したり、自分の思いを最後まで表現しようとする。

### (2) 内容

- ア. 題材名や補充提案などから、未来の自分の夢をのせて大空へはばたく『鳥』を表現する。
- イ. 軽くて丈夫な材料を考えたり、素材の特性を生かして自分なりの方法を工夫して立体表現する。
- ウ. お互いに作品のよさを共感したり、夢に向かっていく友だちを認めたりする。

## 3. 指導の計画（8時間～9時間）

- (1) 未来の自分の夢について話し合い、その夢を『鳥』に託し、アイデアスケッチをする。
- (2) どんな姿、どんな動きの鳥にするか構想を練り、材料を考え話し合う。
- (3) アイデアスケッチをもとにし、心になる本体および翼の部分を作り、バランスを考えながら組み立て、紙粘土をつけ表現していく。
- (4) 完成した『鳥』をお互いに鑑賞し合い、表現の喜びを味わう。

#### 4. 準備

##### (1) 教師

ア. [場の設定] なるべく広い場所

イ. [材料・用具] 鳥をつるすためのフック、アクリル板、発泡スチロール、スチロールカッター、アクリル曲げ用ヒーター、接着剤、紐、紙粘土、ラジオペンチ、エンピ板など。

##### (2) 児童

発泡スチロール、アクリル板、紐、接着剤、針金、ペンチ、カッターナイフ、おしぼり、筆記用具など。

#### 5. 評価

- (1) 自分が表したい鳥の姿、動きに注目して表現しようとしている。
- (2) 材料を自分なりに考え、素材の特性を生かして表現しようとしている。
- (3) 友達の作品のよさをみつけたり、作品を完成させた喜びを持つ。

#### 6. 留意点

「未来の自分の夢を持つ」ということが簡単にできる子と、現実的に考え過ぎてなかなかできない子がいると思われる。その時には、導入の段階や構想を練る段階で個別に声をかけたり、相談に乗ったりして手がかりとなるものをつかみとってもらうように援助したい。また、初めて扱う素材もあるので用具の使い方など安全面においては十分配慮したい。

#### 7. 本時の目標

- 自分の発想・構想をもとに、素材のよさを生かし、工夫しながら『鳥』を表現する。
- 表したい鳥の量感を意識し、全体のバランスを考えながら自分なりに取り組む。

#### 8. 本時の展開

児童の活動の流れ	○支援と評価	☆よさを生かす手だて
① 自分の夢を友達に発表したり友達の夢の話を聞いたりして、どんな立体に表すかイメージを心の内に描くようにする。	○一人ひとりの夢をうなづきながら聞く。	☆途中で話せなくなった子がいたら自信を持つように励ます。
② 自分の夢を『鳥』にのせて、大空高く飛び立つ様子を思いうかべ、どのように完成させるか想像する。	○☆学習カードを確認して、以前ビデオで見た鳥や今まで実際に見た鳥を思い描きどのような鳥を完成させるか考える。 グループで話し合ったりつぶやいたりしながら、さらにイメージがふくらんだり、より意欲的に取り組めるように励ます。	
③ イメージをもとに、『鳥』のつくり方など、構想を再確認する。	○☆素材の特性を生かして「鳥」を表現できるように、観点をしばって確認する。 ・つばさのつけ根 ・背中の部分	

・全体の量感

(左右、上下、正面、後ろからよく見る)

素晴らしい発想や特に工夫が見られる作品などについては取り上げ、努力を認め共感を示して励ます。

- ④ それぞれの思いを温めながら翼の部分に紙粘土で肉づけをしていく。
- ・胴体の部分と翼がしっかり接着しているか確かめる。
  - ・自分の発想にもとづいて翼の肉づけをさらに工夫する。
  - ・自分の表したい鳥になるように立体全体をみつめながら肉づけをして完成する。
- ☆ 作業が遅れている児童には個人的につくり方の相談にのるよう心がける。
- ☆ うまく量感が表現できない児童には鳥の剥製などに触れてみて実感できるように配慮する。
- 初めの発想にもとづいて、思いついたことも取り入れながら思いを工夫して表現するよう励ます。
- ☆ 紙粘土をつけていくとつり合いにこだわる子供もいると思われるので立体としての美しさを目を向けさせるようにする。
- ☆ 早く完成した作品は天井からつるしてみよう努力をたたえる。
- ⑤ 自分が飛ばせたい鳥の動きになるように紐を結び天井からつるす。
- ☆ 以前に見た大空を舞う鳥のビデオを見て、自分が表したい鳥の動きを再確認する。友達と協力し交流しながらすすめる。
- ⑥ 表現の思いをかみしめる。自分の思っていたような表現が出たかどうか確かめたり、さわやかな成就感を味わう。また、友達とも話し合い、他の人のつくったすばらしいところをみつけ合う。
- 隣の友達や近くの友達、そして話してみたい友達と自由に話し合い、鑑賞する。
- ⑦ 制作カードで今日の学習をふりかえり、表現を確かめたり、温めたりする。
- 作品のできばえではなく、自分が学習に立ち向かう姿勢を含め、自分なりに表現できたかを振りかえるようにする。
- ☆ 数人の子に発表してもらい、完成した喜びを分かち合う。
- ⑧ 次時の学習内容を確認し、後片づけをする。

## 9. 本時の評価

- 自分の思いを広げながら、量感豊かに『鳥』を表現しようとする。
- 素材の特性を生かし、工夫しながら取り組む。

学習の主題 それぞれが表現の主題をもち、生き生きと自分を表現してみよう

題材名 「手作りオリジナル壁掛けを作ろう（木象嵌画）」

指導者：井山 和博 生徒：旭川市立永山南中学校 2年2組

### 1. 題材について

旭川は家具、民芸品をはじめとする木工産業がさかんである。また周囲は山に囲まれ多くの森林資源に恵まれている。しかし、この頃家庭の中を見回してみると昔に比べて木製品の数が少なくなってきたように思う。プラスチックやスチール、カーボン、樹脂などの製品は強度にすぐれ、量産しやすいという面をもっているが、木は長年の間生活の中にいきづいており、天然素材特有の温かさややさしさで親しまれてきたものである。

本題材では木象嵌画の壁掛けの制作を通して製作の技術を学ばせると共に、木の素材のもつよさに気づかせ、他の素材との色合いの違いや、木目の持つ美しさにも着目させ、木を素材とした制作に興味を持たせたい。木は身近に多くあり、自然の小枝や木の葉などは、生徒にも比較的入手しやすい素材である。また加工も簡単に行えるので、手作りの良さと楽しさを味合わせたい。また作品のサイズを2種類用意したり製作方法や材料など自ら選択し製作を行えるようにすることで、自分だけのオリジナル作品となるように工夫させていきたい。部屋に飾れる作品から、生活の中へ生かすきっかけとなることを期待する。

### 2. 目 標

- ア 木の素材を生かした作品に興味を持たせ、加工の技術を学ばせる。
- イ 手作りの良さと楽しさを味合わせると共に表現する喜びを体験させる。
- ウ 工芸の関心を生活の中へ生かそうとする態度を育てる。

### 3. 指導計画（8時間計画）

- ① 木工作品を見ながら木の特性について考えさせる ……………（1時間）
- ② デザイン・下絵を作らせる ……………（2時間）
- ③ 制作 

[	* 下絵をトレスする	]	……………（4時間）
	* つき板を切り合わせる		
	* 板に貼る		
	* 木の葉や小枝を組み合わせる		

本時〔3/4〕
- ④ 作品を鑑賞させる ……………（1時間）

### 4. 用具・準備

- \* カッター 木工ボンド メンディングテープ カuttingマット
- 糸鋸 水性ニス サンドペーパー 定規
- \* つき板 板 ひも 金具 木の葉、小枝など
- \* 参考作品 提示資料 制作カード

## 5. 評価の観点

- 美術への関心・意欲・態度
  - A. 用具、材料や資料等の準備が確実に出来ているか。
  - B. 自分の表現したい壁掛けのイメージを持って授業にのぞんでいるか。
  - C. 学習したことを自分の生活の中に生かそうとしているか。
- 発想や構想の能力
  - D. 自分の課題や問題点をみつけ出しているか。
  - E. 木の持つさまざまな要素を組み合わせる工夫をしているか。
  - F. いろいろな角度からものを考えとらえようとしているか。
- 創造的な技能
  - G. 自分の表現に必要な材料や技法を選択し駆使しているか。
  - H. 自分のオリジナルの壁掛けとなるように表現を工夫しているか。
- 鑑賞の能力
  - I. 作品の中から美しさを見つけ出すことができるか。
  - J. 作品の表現や素材の多様性に気づくことが出来たか。
  - K. 他の人の作品の良いところをみとめ、自分の作品の中に生かすことが出来たか。

## 6. 本時の学習について

### (1) 本時の目標

- ・木目や木肌を生かした制作を行うことができる。
- ・自然素材の組合せからイメージを広げることができる。

### (2) 準備

生徒：カッター 下絵 制作カード 木工ボンド セロテープ 定規 木の葉、小枝など

先生：カッティングマット

つき板 板 参考作品 提示資料

アイロン ゴムローラ 練り板

## 7. 展 開

生徒の活動の流れ	○ 支援と評価	☆良さを生かす手だて	評価
① 制作カード・下絵を見ながら前時までの過程を振り返る	○制作の過程を確認し、見通しをもって制作を行うことができる		A B
② 制作の手順を確認しながら象嵌画を制作する		☆机間巡視をしながら必要に応じてアドバイスを与える	

③ 集めてきた小枝や葉、 木の実を組み合わせてみ る	○木目模様 木目の向きや組合せ 色合いに着目させる	☆個別指導の中から幾つか のタイプの作品について ピックアップして紹介する	E
④ 出来たところまでの作 品を見ながら感想等を発 表する	○☆自然の組合せによってイメージを広げる  ○難しかったところ 工夫したところ うまくいったところ 作業で気がついたところ などを発表させる	☆他の者の作品の良さを発 見し認めることで自らの 制作に生かす  ☆制作カードに記入し次回 の制作に見通しをもつ	H  D K





## 中学校・2学年・彫刻（粘土によるレリーフ）

学習の主題 一人一人が表現の主題を持ち生き生きと個を表現する

題材名 「愉快的仲間」

指導者：畠山 勝 生徒：旭川市立神楽中学校 2年2組

### 1. 題材について

中学2年生ともなれば、自己を見つめるようになると同時に、友達に対してもその内面をとらえることが出来るようになる。また、この時期の生徒は、新しい題材として手応えのあるものを求め、粘土を扱うことに対して強い興味や関心を示す。このような時期に友達をモデルとし、粘土で立体を表現させることは意義あるものと思われる。

彫刻の表現学習では主題を的確に表現させることが大切であり、このために構想の段階で立体を通して何を表現したいのかを明確に把握させる指導が必要である。

粘土による彫刻といっても色々なものがある。本校では1学年で丸彫りを経験した。2学年ではレリーフ独特の圧縮された立体や空間の面白さを味わわせることにより表現の広がりを持たせ彫刻表現への意欲を高めていくことができるとと思われる。粘土によるレリーフは多様な表現ができるので指導可能な範囲で選択幅を広げることにより、主体的に個々の思いのままに追求する学習が経験できる。

本題材では、興味のある友達のユニークな姿や表情を主題として立体の表現をさせることにより、主題を的確に把握して表現する態度と能力を養うことができるとと思われる。また、サイズ、ポーズ、画面への取り入れ方、粘土、地山の形、肉付けの表現技法（5タイプから選択、併用及び途中での変更可能）等を指導可能な範囲で選択幅を広げ独自の主題を試行錯誤を繰り返し粘り強く追求させることによって個々の思いを楽しみながら生き生きと表現していける学習活動にしたい。さらに完成した作品を美しく展示出来るように土台等を工夫をさせることにより、作品を大切にし暮らしのなかに生かす態度を育てたい。

### 2. 目 標

- (1) レリーフ表現の面白さを良く理解させ主体的に取り組む態度を養う。
- (2) アイデアスケッチを通して表現の主題を明確に持つことができる力を養う。
- (3) 材料・用具・技法の特性を生かし、個々の主題にあったより効果的な表現を試行錯誤を繰り返し、楽しみながら工夫する力を養う。
- (4) 自他の作品を鑑賞し良さを認めることができる力を養う。
- (5) 展示のための工夫をさせ、作品を大切にし暮らしの中に生かす態度を育てる。

### 3. 指導計画（12時間）

- (1) 参考作品等の鑑賞や制作過程の説明をしてレリーフについて理解させ制作のイメージを持たせる。…………… 1時間
- (2) アイデアスケッチをし各々のテーマを設定させる。粘土を選択させる。…………… 2時間
- (3) 自分のイメージにあったサイズで大まかに地山を制作しデッサンさせる。表現技法を選択させる。…………… 2時間

- (4) 各々の主題にそって地山の形を工夫し厚みの変化の粗付けをさせる。スケッチや実際にモデルを見ながら細部を制作しより効果的な表現を追求させる。……………本時 $\frac{1}{2}$ 時間
- (5) 作品を仕上げ（着色）る。美しく飾るための台を制作する。……………2時間
- (6) 完成した作品を鑑賞し自他の良さを認め合わせる。……………2時間

#### 4. 準備

##### (1) 授業前の準備

- ア. 教師……………レリーフ及びその他の彫刻作品を廊下等に展示しておく。
- イ. 生徒……………作品をよく鑑賞しておく。

##### (2) 材料、用具の準備

- ア. 教師……………粘土、粘土べら、粘土板、ビニール袋、作品資料、学習カード、土台用の板及び台紙、着色ニス、接着剤、糸のこ等
- イ. 生徒……………教科書類、新聞紙、タオル、各自必要な道具、ジャージ

#### 5. 評価

##### (1) 関心・意欲・態度

- ・主体的に表現活動に取り組み、創造の喜びを味わおうとする。
  - A. 題材に関心を持ち、楽しみながら意欲的に取り組んでいるか。
  - B. レリーフの表現上の特徴、美しさを理解し制作の見通しを持つことができたか。
  - C. 制作に熱中して、ねばり強く最後まで頑張って作品を完成させたか。
  - D. 用具等忘れ物がないか。きちんと後片付けをしたか。

##### (2) 発想や構想の能力

- ・想像力を働かせイメージを主題としてまとめ表現の構想を練る。
  - E. 友達の姿をしっかりと観察し、自らのイメージをアイデアスケッチに的確に表現することができたか。
  - F. 構想を練り上げ主題としてまとめることができたか。

##### (3) 創造的な技能

- ・個々の主題に基づいて、自分なりの工夫をして個性豊かに、思いのままに表現する。
  - G. 自分の表現意図に合った表現技法を選択し、かつ独自の表現を工夫しているか。
  - H. 試行錯誤を繰り返し各段階でより効果的な表現のための創意工夫のあとが見られたか。
  - I. 自らの主題にそった表現を追求できたか。

##### (4) 鑑賞の能力

- ・完成した作品を鑑賞し、完成の充足感や満足感を味わいながら自他の作品の良さや美しさ、工夫などを感じ取る。
  - J. 友達の作品の良さや工夫がよく表れている所に気づき積極的に話し合うことができたか。
  - K. 作者の心情や、表現意図を的確に理解することができたか。

## 6. 本時の目標

- 各自の主題にあった地山や粗付けを工夫し、楽しみながら生き生きと制作できる。

## 7. 本時の展開

生徒の活動	教師の支援と活動	個々のよさを生かす手立て	評価
<p>○前時までの学習を思い出し、本時の学習内容を確認する。</p> <p>○自分の主題とアイデアスケッチ、表現技法を確認し本時の学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習カードとアイデアスケッチを見る。</li> </ul>	<p>●前時までの学習を振り返り、本時の学習内容を知らせる。</p> <p>●各自の主題とアイデアスケッチ、表現技法を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 数人に主題を発表させる。</li> <li>• 5タイプの表現技法を挙手により確認する。</li> <li>• それぞれの技法の特徴について簡単に確認する。</li> </ul> <p>●材料、用具を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個性的でユニークなものをあらかじめ選んでおき制作意欲を刺激する。</li> <li>• ひとつの技法に固執し過ぎないように注意する。</li> <li>• OHPを使用し手短かに説明する</li> </ul>	<p>A</p> <p>D</p>
<p>○自分の主題にそって制作をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 好きなサイズ、形に地山の工夫をする。</li> <li>• 厚みの変化の粗付けをする。</li> <li>• 細かくなりすぎない程度にデッサンをして形を整える。</li> </ul>	<p>●各自の主題にそって制作させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 地山を工夫させる。</li> <li>• 細部にとらわれないように短時間で粗付けをさせる。</li> <li>• デッサンをさせ形を整えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 机間巡視</li> <li>• 個別指導</li> <li>• 20分程度</li> <li>• 技法のタイプ別に一斉指導をする。</li> <li>• 試行錯誤を楽しむことに重点をおき途中で地山や技法の変更も認め意欲的に制作できるように配慮する。</li> <li>• ユニークな作品等を取り上げ全体で紹介し意欲付けを図る。</li> </ul>	<p>G</p> <p>H</p>
<p>○作業を終了し本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しを持つ。</p> <p>○材料・用具の返却、清掃をする。</p>	<p>●作業を終了させ各自の主題を追求して楽しみながら地山の工夫や粗付けができたか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 次時予告</li> </ul> <p>●後片付けをさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 挙手による確認</li> <li>• お互いの作品を見せ合い感想を述べさせる。</li> <li>• 自他の作品の良さを認め合い次時への見通しを持たせる。</li> </ul>	<p>I</p> <p>E</p>

学習の主題 想像性豊かな独自の世界を表現する。

題材名 「わたしの不思議な風景」 (不思議の国の?さん)

指導者：森 清行 生徒：旭川市立忠和中学校 2年2組

## 1. 題材について

子どもを取り巻く視覚の世界は、いろいろなイメージによって彩られている。そのような世界によって心の形成が行われていると言っても過言ではない。このような子どもたちの視覚の底に混沌としている感情の世界を絵画を通して表現させたいと考える。

本題材は、発想の方法としてフォトコラージュをベースにし「?さん」という人物をイメージづくりのよりどころとしながら、表現技法(モダンテクニック)のいくつかを使い、紙の形も各自の創意に任せるなど、作品に変化やふくらみを持たせることによって、より独自性の発揮させるイメージの表現をねらわせたいと願っている。

技法による視覚的な刺激は、創作への意欲づけとして、また、表現力を育てる上でも有効な方法かと考える。技法上、描画上のマテリアルな面で、比較的選択の幅の少ない絵画領域としては、表現に広がりのある題材であり、他の表現領域への応用など示唆のあるものと考えられる。

## 2. 目 標

- (1) 超現実的なイメージの世界の表現を通し、想像力を培い、個性豊かなものにする。
- (2) 表現の世界の広がりを知り、想像しつくり上げることの喜びを味わう。
- (3) 表現技法を工夫しながら、自己の表現を追求する。

## 3. 指導計画

- (1) ラフスケッチや文章化によってイメージをとらえふくらませる。……………2時間
- (2) イメージに関わる資料や技法、紙面の大きさ、形を決めさせる。……………1時間
- (3) 手順や方法を考えながら計画的に制作させる。……………本時2 / 4時間
- (4) 構想をおさえながら効果的な作品づくりを追求させる。……………2時間
- (5) 自他の作品のよいところをまとめ発表し、鑑賞させる。……………1時間

## 4. 準 備

- (1) 教師 マーブリング用具、スパッタリング用具、ぼかし用ローラー、用紙数種、描画用具数種、はさみ、カッター、のり、参考資料、新聞紙(チラ紙)
- (2) 生徒 スケッチブック、教科書類、筆記用具、彩色用具、各自必要な資料、制作メモ

## 5. 評 価

- (1) 関心、意欲、態度

- A. 題材に興味関心を持ち、意欲的に取り組むことができたか。
  - B. 制作全体の見通しをもち、計画的に取り組むことができたか。
  - C. 自己のイメージをもとに、紙の形や技法、描画用具を選び楽しく取り組むことができたか。
  - D. 用具の準備、忘れ物等はないか。後片付けの様子はどうか。
- (2) 発想や構想
- E. 資料や参考作品を生かし、自己のイメージをライフスケッチまたは、文章にまとめることができたか。
  - F. 試行しながら、イメージを具体的なものにできたか。
- (3) 創造的な技能
- G. 作品づくりに、アイデアや工夫が見られるか。
  - H. 表現技法がいかされ、想像性豊かなものになっているか。
  - I. 技術上の効果的な表現への努力が払われている。
- (4) 鑑賞の能力
- J. 自他の作品の良さや工夫を感じ取り、まとめることができたか。

## 6. 本時の目標

- (1) 制作の手順や方法を考え、各自のねらいに合わせた作品づくりを進める。
- (2) 自己のイメージを追求しながら、意欲的に楽しく制作する。

## 7. 本時の展開

生徒の活動の流れ	支 援	個々のよさを生かす手立て	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習内容をもとに、本時の活動内容を知り制作メモに記入する。</li> <li>○各自のまとめから、本時の取り組みを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習内容をおさえ、本時のテーマを把握させる。</li> <li>○各自の課題を確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時が作品づくりの大切なポイントになることをおさえる。</li> </ul>	A D  B
<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自の課題やねらいに合わせ、作品づくりを進める。</li> <li>○試行を行うなかで、作品の方向性をさぐり具体的なものにしておく。</li> <li>* 自分が必要とする表現技</li> <li>* 法の試作。</li> <li>* イメージの調整。</li> <li>* 色や形の工夫。</li> <li>* 資料の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イメージの方向性を探させる。 * 必要によっては、イメージの加除修正を図らせる。</li> <li>○点景の表現、対象の配置の工夫をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何をどのように表現することによって個々のねらいや制作が、より生かされるか各自の作品に応じて援助する。 * 机間巡視 * 個別指導</li> <li>○発想を大切にしながら意欲的に作品づくりが進められるよう配慮する。</li> </ul>	F  G  H
<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の活動をまとめ、発表し、次時の課題を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の内容をまとめ、発表させ次時の見通しを持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次回の励みや、計画性が育つよう考慮する。</li> </ul>	B D



## 歓迎あいさつ

第43回旭川大会

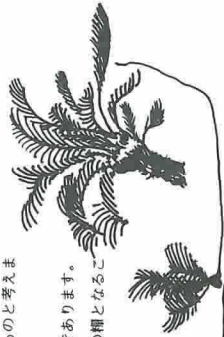
運営委員長 川島信也

第43回北海道造形教育研究大会、旭川大会の開催に当たり、全道各地から道北の拠点都市旭川市において下された皆様を心から歓迎申し上げます。

この大会は、昭和61年の第39回全国造形教育研究大会と兼ねて第36回全道造形教育研究大会が旭川で開催されて7年ぶりの大会です。一口に7年ぶりとは中せ、世界を取りまく情勢をはじめ我が国の教育界も大きな改革がありました。幼稚園教育要領の改訂、小・中学校指導要領の改訂、小学校では生活科の新設、中学校では選択教科の拡大、学校5日制の導入による第2土曜日の休業日と変化のあった7年ではなかったかと存じます。

この旭川市は明治23年の屯田兵の入植にはじまり、今年で開基百三年を迎えます。木のまち、川のまち、最近では彫刻のまちとしても脚光をあびております。小・中学生「彫刻の森」大会をはじめ中環橋二館賞、又、駅、買い物公園、散策路、橋等に多くの彫刻の作品が設置されており、新年度には、彫刻美術館が開館されます。学校の増設ももおかた終り、新校舎には壁面やオーブンスペースが設置され、児童・生徒はよい教育環境のもとで学習しております。「環境は人をつくる」とは中せ、教師の手だてや助言により更に児童・生徒の個性が伸長されるものと考えます。

特に、図工・美術の教育では創造性を培う教科として重要であります。どうか二日間の大会ではあります参加された先生方の明日の糧となることを祈って歓迎の挨拶といたします。



## 旭川大会によろこそ

旭川大会実行委員長 大久保 正義

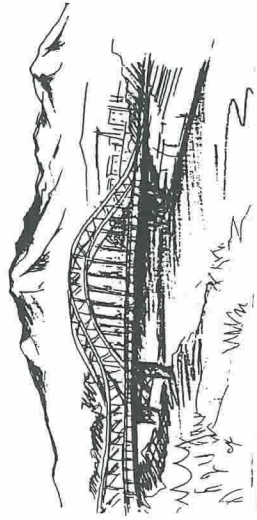
全道各地からお集まりの図工美術にかかわる先生方、ようこそ旭川大会におこし下さいました。夏季休業のスタートの大変ご多忙なか、本研究大会におこしの皆様を心から歓迎いたします。

一昨年であったと思いますが、造形連盟本部から第43回大会を旭川でというお願いが、あって以来、旭川市教育研究会図工美術部員が「丸」となって研究を進めてきましたが、十分な準備もできぬまま本日を迎えたところですが、この大会に参加下さいます先生方、我々旭川会員の悪戦苦闘の足跡を提示しご理解をいただければ幸いです。

会場校であります東五条小学校は、昭和30年代の開校以来レベルの高い研究実践が展開され、その伝統が今日まで脈々と継承されている学校です。このような教育風土を基礎として新築されたすばらしい教育環境を会場校としてお借りして、全道の仲間と口頭の実践を交流できることを幸甚に思います。

私たちは、子供たちの成長にとって全生活を通して手を使い新たな物を創造する営みがいかに大切であるかを明らかにし、確認し合う大会であってほしいと思います。そのような願いから、部活動やクラブ活動等を取り組んだ野外彫刻作品も展示し、ご指導を仰ぎたいと考えております。

この2日間の研究会のなかで、造形教育を愛する先生方の輪が一層広がることをお祈りし、歓迎の言葉といたします。



平成5年7月28日(休)・29日(休)



# ななかまど ②

## 造形広場へどうぞ♪

日時 7月29日 9:00~10:20  
場所 1階ワークショップスペース(受付横)及び屋外スペース

\*屋内では子ども達の楽しい作品を、屋外では、毎年全市の小・中学校で実施している、立体造形の祭典「彫刻の森」への出品作品の一部が展示されています。



### 造形広場で案内

広場でこんなことを!!

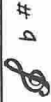
1. 発泡スチロールで作ろう
2. 飛ばそう紙飛行機
3. 小枝と松かさで小物を作ろう
4. 木象がん画の制作
5. トーナメントボールを作ろう
6. 堆朱加工
7. 光の造形行灯づくり



(参加者の声) 全道造形旭川大会に期待する

今回の大会を、新人の私はとても楽しみにしていました。私がいる幼稚園では、造形的なことばかりおこなっていませんので、是非、先生方の指導法や子ども達の様子も参考にしたいです。今年が初めての経験に役立てていきたく思います。100%吸収して帰りたいと思います。

旭川・あゆみ幼稚園 安田 ルミ



## グリーンコンサートへどうぞ

お昼のひととき、彫刻のある緑の芝生で私たちの音楽をお楽しみください。

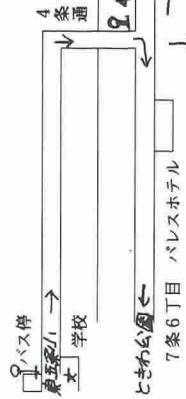
東五条小学校 音楽クラブ  
明星中学校 吹奏楽部



## 歓迎レセプション案内

日時 7月28日(水) 6:00~8:00  
場所 旭川パレスホテル2F  
グラントホール  
会費 4000円  
(お申し込みは会場でも受け付けます。)

\* おいしいビールが待っています。みんなで交流・カンパいしましょう。



旭川12号線

平成5年7月28日(水)・29日(木)







第43回 全道造形教育研究大会  
旭川大会(旭川市立東五条小学校)

## 公開保育をして：感想

くりの木幼稚園 平 広子  
ふたば幼稚園 長尾 寛子

予想していたよりも、子どもたちの動きを見ることができず参観の方にびっくりにしてしまふ姿が見られた。その中でも、子どもたちは少しずつ何をしようかと考えたり、作り始めたようだった。

やはり、公開保育は、予想せぬ場面が多く出てくる。日常の保育とは全く違う姿になってしまった。その中で、新しい経験ができ、良かったと思う。

## 豊かな想像力

めばえ幼稚園 寺田 幸恵  
重カサ物をイ作るう 5才児 を見て

子供の豊かな想像力には驚かされました。導入も子供が自然な雰囲気活動に入れるような配慮が感じられました。このような点をこれからの自分の保育に生かしていきたいと思ひます。

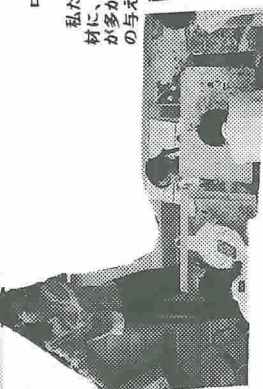


## 授業が終って 子どもたちの声

- ▲ 楽しかった。面白かった。(中2男—絵画)
- ▲ 楽しかったよ。パッチシ。(中2女—工芸)
- ▲ 今迄生きてきて、1番楽しかった。(中2男—彫刻)



今にゴブラスジャ  
本白開店に  
間に合います



(授業参観者の声) 題材名「何がでできるかな」  
— ガンパの森 —

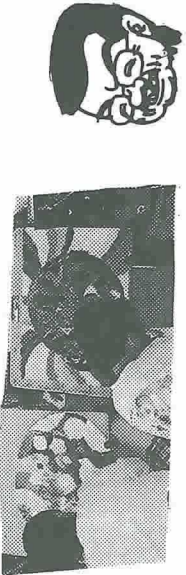
楽しい森ができあがっていました。  
つり下げない方法もあってもいいし、ななめの方向や、いろいろ伸びる木や枝など、自由に思いを広げるのもよいかと思います。

札幌市・中央小学校 阿部 宏行

- 「何がでできるかな」 — ガンパの森 — 参観者の感想・意見等
- \* 展示に広がり・立体事情・・・大切です・・・一人ずつ受け持ったところまではよい。変化あり・・・中庭のどこかを「ガンパの森」と呼ぶようにしよう。
  - \* 題材があまりイメーτζしやすくないものでなかったため、心配していたのですがとても熱心に取り組むことができました・・・子どもたちが楽しそうに活動できたことが一番良かったと思います。(宮本)
  - \* 四年生らしい生きた様子を目せていた嬉しかったです。
  - \* 題材がよいせい、本当に集中して取り組んでいる様子が伝わってきました。凶工の授業のために思い遣うのですが、初めの話は本当に必要な話を一つ一つで良いと思ひます。
  - \* ようか・・・五つの約束も多すぎたのでは・・・本当に大切なものを二つで良いと思ひます。
  - \* 子どもたちの様子ですが、何人かで、あるいは一人で取り組んでいるので、さまざまな子どもたちの活動があり、よかったですと思ひます。
  - \* あと一時間で出来上がりというところで、楽しみなガンパジャングルですね。

中学の公開授業を見て (高校・中学の連携)  
旭川・南高等学校 山口 幸彦

私たちの仲間には中学校を経験した教員が多く、自分達がやって授業で使った教材に、更に工夫を加えて、子どもたちを引き付ける授業展開がなされているとの感想が多かった。また、美術の単位数が減らされたことに対応した授業展開(細かな資料の与え方)がなされているとの意見が多かったようです。



# 全道造形 なななかまど



5



## 分科会に参加して

川口 幸和 (旭川西高)

分科会2 (高校) 今日の高校における造形教育を考える

参加者は少なかったが、新カリキュラムについて熱心に討議。特に進学校の単位換算は切実な問題。新カリキュラムは短い文句はいいが、実質面では後退。受験オウンリーの傾向が一層強まり大きな問題である。どんな人間に育てていくのか。

あひれセッション  
28日(水) 6:00~8:00 P.M.  
パレスホテル 2F  
約300人の参加者が集い、交流を深めました。次期開催地の釧路代表から、力強い決意と熱い発言がありました。

## 分科会に参加して

### 分科会名 つ・立

羽幌町・天宗小学校 小西 共美  
図工の指導の方法、指導のあり方、考え方の多様性を少しでもあげてはありますが、みることでできました。もう少し時間があればもっといろいろな意見がたくさん聞けそうだったのが残念です。ベテランの先生方の話を少しでも聞けて大変勉強になりました。

### 分科会名 絵画

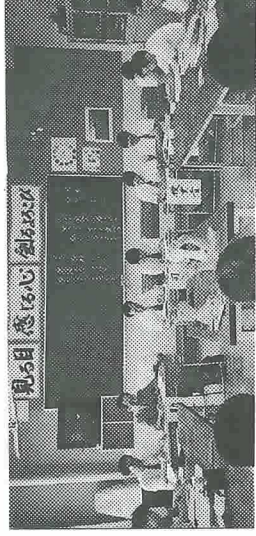
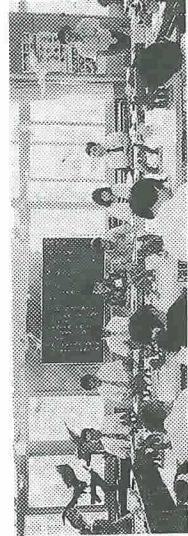
札幌市 西宮の沢小学校 岡部 理佳  
導人の段階で、子どもの思いを育てていく大切さを感じました。合わせて、得意、不得意でなく、一人ひとりが、その子なりの表現をしていこうと思える題材の選定の難しさ、また、その中で、教師はどのような役割を果たすか……。これから、いろいろ実践しながら考えなくてはなる。・・・と思いました。

### 分科会名 造形あそび

一人ひとりでの作品よりも、何人かで協力してつくっていったものがよかった。分科会の時間が短かく、2、3の質問しか出なかった。もう少し時間がとれてもいいのではないのでしょうか。

### 分科名 造形あそび

旭川市 東光小学校 山中 あゆみ  
子どもらしいはつらつとした笑顔で、造形遊びの学習に参加していた子ども達の姿が印象に残っています。分科会の話し合いです。子どもを主体にした、子どもの思いを大事にした授業をつくりあげていく教師の姿が感じられ、大変参考になりました。  
学校にもどりましたら、子どもと共に楽しい造形遊びをやってみようと思います。



### 分科会名 表現

東光幼稚園 池崎 あゆみ  
今回の合同保育を行うにあたって、2園が、2度にわたるリハーサルのような様子など、ビデオを使っての説明もあり、大変わかりやすく聞かせていただきました。

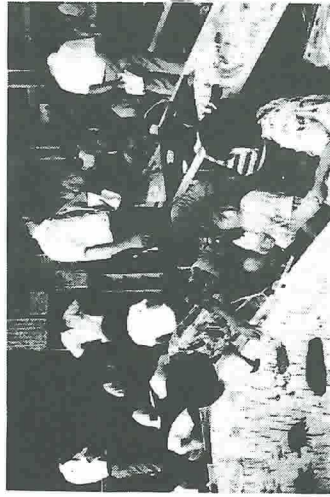
### 分科会名 絵画

江別市 大森中学校 伊東 光悦  
子供が、自由な発想と自由な技法・材料で製作する場、事前の技法指導や見直しを持たせる作品を提示し、質の高い方向づけをしていることがわかった。(授業実践検討から)  
新指導要領に沿った指導案や、方向づけ(試案)を行っているが、その方向が、(新指導要領)本当にいいのかわるか、検討しなければならぬと思った。





北海道アイムス



「ジャンボコロリントゲーム」を作る児童ら

個性伸ばす授業とは  
造形教育研究大会始まる

「思いをあたため、心は  
まず、創造意を教師  
探究テーマに、造形教育通  
関者団体委員の協同回  
全道造形教育研究大会が28  
日から、旭川市立東五条小  
学校で始まった。全道各地  
の教員ら約40人が、幼  
稚園から高校までの造形授  
業について話し合った。  
子供の個性を伸ばす、創  
造意を直接指導、開  
いている同調の信頼行事  
で旭川の開催は今回、

初日は、市内の幼稚園が  
中心で、旭川、リウラエ  
の幼児生が集まり、通  
関者団体委員の協同回  
形をとり、立休に集まり、  
彫刻などの内容の授業  
を公開した。  
このころころとどき  
きあしむは、このテーマ  
で授業を行った造形小4年  
生の授業は、グループで  
とびまわを組んで、  
ジャンボコロリに似たジャンボ  
コロリとびまわを  
製作し、子供たちはは  
じまり、



授業参観者の声

題材名「何ができるかな」

— ガンパの森 —  
広々としたスペースを使って、  
子どもが本当に楽しみなから、よ  
くアイデアを工夫して、造形活  
動をしていたので、すばらしいと  
思いました。(函館市 井端)

題材名「何ができるかな」

— ガンパの森 —  
授業の始まる前から、「早くや  
ろうよ」と楽しみにしていたり、  
作業も、楽しみなが意欲的にど  
んと進めていく子が多かったの  
は、素晴らしいと思いました。も  
う少し、子供同士の交流が多くて  
よかったと思います。

題材名「私の家」

「私の家」、どんな絵ができる  
んだらう。そんなことを考えなが  
ら教室に入りました。驚きました。  
それぞれの子が、自分のイメージ  
でかいた絵が画板の上に並んでい  
ました。指導によって、子供の思  
いをあのように引き出すことが  
できるんですね。



分科会2に参加して



☆分科会 つ・立

紀要をみて、アルミカンの動物園について聞きたいと思い、午後はこの分科会にき  
きました。5年生の題材はよくわかりませんが、「宇宙動物園にしよう」というアイデ  
アによって、子供がのってくるからです。特に、最後の動物園に行つての感想文を  
読むと、(多分作品のできに関わらず)本当に動物園に行つたように想像できていま  
す。想像できたことは、とても素晴らしいことだと思います。作品に舞台を与えるこ  
と、戻つてきたこともやってみようと思いました。(千歳 末広小 岸)

☆分科会 造形

中学校の教師をしてありますが、小学校で造形遊びという領域ができたことを知り  
はなして教科として成り立つものかどうか、興味を持って見せていただきました。お話を伺  
いしました。実践例等、とてもおもしろく、やはり子どもが楽しんでできることに発展  
があるのだなあと改めて感じました。(石狩 花川南中 川島)

☆分科会 絵画

子どもの思いを広げる(イメージをふくらませる)ときに、教師がどのように関わ  
つていったらよいかという点で勉強させて頂きました。体験を自分のものにしていく  
こと、子どもの発見を大切すること、伝達の相手を明確にすること等、自分なりに取  
り入れていけたらと思います。(帯広 大空小 篠島)



授業参観者の声

題材名「うつつ・うつつ」  
旭川市 永山東小学校 伊藤 久栄  
「楽しかった?」「ハイ」「ハイ」きらきらした顔、楽しそうなお顔。赤、黄、青...。  
カラー手袋をはいたようなちっちゃな可愛い手。どの子ども意欲をもって、力いっぱい  
一年生なりに頑張った楽しい授業でした。

平成5年7月28日(水)・29日(木)



### ご苦労さまでした

「旭川大会は暑い」のジンクス通り、本大会も二日間好天のうちに終わることができました。外の暑さもさることながら、文字通り全道各地から、この様に大勢の先生方にお集まりいただき、充実したご提言、ご討議をいただきましたこの「熱さ」を大変ありがたく思いました。

4.3回の長い歴史の中で先輩が築いてこられた成果の上になたってこれからの新しい時代に対応すべき造形教育のあり方についてのささやかな実践ではありますが、子供たちの明日への創造活動の一助となれば幸いに存じます。

事務局不慣れなためお集りの先生方のご期待にそえる運営はできなかつたと存じますが、一丸となって準備させていただいた旭川会員の意をおくみいただき、おゆるし願えればと存じます。

最後になりましたが、本大会のために、ご支援、ご指導くださった関係機関各位、全校あげてバックアップいただいた会場校、東五条小学校の職員、父母、生徒の皆様、準備のために何度も足を運んでいただいた連盟本部の皆様、大会を盛り上げてくださった全道各地の先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

また来年釧路であいましよう。

大会事務局長 島本 捷夫



先生方の熱気に  
会場がふれまわりました。

思いをあふため心をはすせば  
新造形教育の心は今に旭川より全国に発信  
できなほど大きな喜びを感じます。  
子ども達の思いを大切にし、感謝し支援する教師の  
姿を学ぶことができませんでした。この成果を来年は  
寮の都くあつで

心と熱く創造の喜びをゆめで  
よはさんとお会い  
しよう



釧路造形事務局  
稲船 正男

第44回 全道造形教育研究大会 釧路大会  
期日 平成6年7月27日(水)～28日(木)  
研究 主題 「心とまめく、創造の喜びを求めて」

## 編 集 後 記

真っ赤な「ななかまど」の実が秋空に映える頃になりました。

「思いをあたため 心はずませ 創る喜びを」を旭川大会のテーマに、研究部員一同が試行錯誤しながら取り組んで参りました研究の成果でしたが、全道各地から参加された700名の先生方と共に交流を深めることができ大きな収穫でした。

研究授業、提言、分科会討議などもっともっと話し合い研究を深めたかったという声もあり、造形教育に寄せる先生方の熱意の程が感じられた二日間でした。

ここに大会の要旨をまとめ、残された課題に向かって部員一同これからも日々実践研究に取り組んでいきたいと思えます。

### ● 編 集 部

◎新井 絹恵 (啓明小)

○門脇 元 (愛宕小)

○菅 導信 (東光中)

○工藤 齊 (神楽小)

西村 絹子 (西御料地小)

石黒 昭子 (旭川第三小)

木村 悦子 (正和小)

本間 篤 (旭川中)

猿田ひとみ (広陵中)

田中 好恵 (西神楽中)

居島アヤ子 (愛宕東小)

長野 晃児 (東光中)

阿部 英子 (永山西小)

伊藤 久栄 (永山東小)



### 第43回 全道造形教育研究大会旭川大会

発 行 者 大会運営委員長 川島 信也  
大会事務局 旭川市立神居東中学校  
発行年月日 平成 5 年 10 月 30 日  
印 刷 所 岡 本 印 刷 所  
旭川市6条西5丁目 電話 (0166) 22-0752番



集録1993